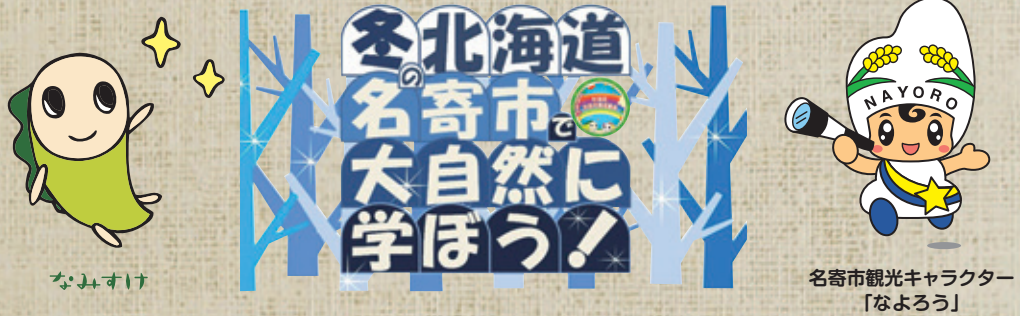


令和5年度

# 小学生名寄自然体験交流事業報告書



杉並区次世代育成基金活用事業

令和6年3月  
杉並区教育委員会

# 目次

## 01 小学生名寄自然体験交流を終えて

杉並区教育委員会 教育長 白石 高士  
名寄市教育委員会 教育長 岸 小夜子

## 02 小学生名寄自然体験交流事業の概要

## 04 写真でふりかえる交流事業

## 08 派遣児童の作文・作品

## 33 ダイヤモンドダストのように輝いた笑顔 四宮小学校 校長 浮ヶ谷 優美

## 34 保護者の感想

令和5年度名寄市・杉並区交流事業

なよろ市立天文台「きたすばる」  
令和5年12月26日

## 小学生名寄自然体験交流を終えて



杉並区教育委員会  
教育長

白石 高士



名寄市教育委員会  
教育長

岸 小夜子

厳冬の北海道名寄市に小学5・6年生を派遣する「小学生名寄自然体験交流事業」も、今回で12回目を迎えました。温かく迎えてくださった名寄市の皆様や、子どもたちの体調管理に万全を期してくださった保護者の皆様など、多くの方々の支えにより無事に事業を終えることができましたことに大変感謝申し上げます。

この季節に子どもたちを派遣しているのは、寒さの厳しい雄大な自然の中で、東京での生活との違いを自分自身の肌で感じ、得られる学びがあるからです。飛行機を降りたときに目の前に広がる銀世界、髪の毛まで凍るほどの寒さ、澄んだ空気の中で見られる満天の星空など、様々な体験から得られた感動は、子どもたちの学びに大きくつながっていくものと考えています。

子どもたちは、実際に名寄市へ向かう前にそれぞれ自分の学習テーマを設定し、事前学習を行っています。今回も2度の学習会に加え、名寄市の児童とのオンライン交流会を行いました。杉並区と名寄市の暮らしをテーマにご当地クイズ大会を行い、大いに盛り上がったと聞いています。こうして、胸を膨らませて当日を迎えた子どもたちは、名寄市で多くの刺激を受けることで、興味関心が広がり、もっと調べてみたいという探究心が育まれました。子どもたちの作品を見て、今回の体験が子どもたちの可能性をさらに広げているものと確信しています。

学習成果発表会では、派遣中に見ることができた土星や木星などの天体のこと、寒い中で行った実験についてまとめた児童だけでなく、アイヌの言葉や名寄市名物ジンギスカン鍋について調べた児童など、それぞれが個性あふれる視点でまとめた作品が展示されていました。子どもたちは緊張した面持ちでしたが、いざ始めてみると自信にあふれ、勇気をもって舞台上立った子どもたちのたくましさ、この数か月間の成長を感じることができました。ぜひ、この経験を学校の友達や周りの大人たちにも伝えていってほしいと思います。

結びに、本事業の実施にあたりまして、次世代育成基金の趣旨にご賛同・ご支援をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

本年度も杉並区の皆さんが「小学生名寄自然体験交流」で名寄市へお越しくださり、和やかに交流させていただき、事業を無事終了できたことを大変嬉しく思います。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、マスクを外し、お互いの表情を見ながら、普通に声を出して交流できることに大きな喜びを感じました。感染症対策による行動制限が緩和されたとはいえ、基本的な感染対策は必要であり、そうしたことも含めましてきめ細かな準備など、ご支援、ご協力を賜りました保護者、関係者の皆様には心より敬意を表し、感謝を申し上げます。

参加された杉並区の児童の皆さんには、北国博物館での展示室の見学、スノーシュートレッキングや雪中での宝探しによる名寄の児童との交流、スノーモービル体験、なよろ市立天文台きたすばるの見学など、名寄ならではの冬の自然や文化、スポーツに親しんでいただきました。

杉並と名寄の児童の皆さんは、対面式の自己紹介ですぐに打ち解け、その後の北国博物館横のミズナラの原生林の中で、スノーシューを履いて駆け回りながら、お互いに協力して宝探しを進め、楽しそうに笑顔で交流することができたことや、スノーモービル体験では、名寄スノーモービル協会の会員による運転で、雪との一体感を味わい風を切る迫力ある走りを実感していただくことができたことを聞いております。また、天文台では2日目に天候に恵まれ、短時間ではあったものの月や木星、土星を観測することができたことも聞いております。これらの様々な活動を通じて名寄の冬を体験し、新たな学びのある充実した3日間を過ごしていただけたのであれば嬉しい限りです。

本事業は、「杉並区次世代育成基金」を活用して、次世代を担う子どもたちが様々な体験・交流を経て、夢を描き、その夢に向かって健やかに成長できる取り組みを支援する活動と伺っております。冬の名寄市での体験・交流が、本事業の目的に少しでも寄与できますよう、今後とも受け入れに最大の努力をし、杉並区との絆を一層深めていきたいと考えております。

結びに、本事業の実施にあたりましてご尽力を賜りました関係の皆様にも重ねてお礼を申し上げますとともに、参加された児童の皆さんの健やかな成長並びに杉並区と名寄市の交流や相互理解がますます深まることを祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

# 小学生名寄自然体験交流事業の概要

## 1. 目的

この事業は、杉並区次世代育成基金を活用して、交流自治体である名寄市に区内児童を派遣し、天体観測などの体験を通して自然の雄大さや大切さを学ぶとともに、名寄市の小学生との交流により、互いに尊重し合い、学びあう中で、豊かな人間性を育むことを目的としています。

## 2. 事業のスケジュール

令和5年 10月30日(月)	結団式・第1回事前学習会・保護者説明会
11月18日(土)	オンライン交流会
12月 1日(金)	第2回事前学習会・保護者説明会
12月26日(火)～12月28日(木)	自然体験交流(北海道名寄市派遣)
令和6年 1月10日(水)	学習相談会・保護者説明会
2月 3日(土)	学習成果発表会
参加自由 11月 3日(金・祝)	天文学習会(星空観望会)

## 3. 派遣児童名簿(学習・行動班)

班	氏名	学校名	学年	班	氏名	学校名	学年	
1班	浅見 つむぎ	桃井第四小学校	6年	3班	星野 歩実	桃井第一小学校	6年	
	山内 遼馬	大宮小学校	6年		沢井 奈月	桃井第五小学校	5年	
	川田 結大	高井戸第三小学校	5年		芳 拉	西田小学校	5年	
	小原 颯稀	杉並第十小学校	5年		和田 青潤	桃井第三小学校	6年	
	吉永 花乃	永福小学校	5年		名取 龍希	天沼小学校	6年	
2班	近藤 すず花	桃井第四小学校	5年	4班	小垂 尚叶	和田小学校	6年	
	柳沢 早紀	松ノ木小学校	5年		山口 琴音	富士見丘小学校	6年	
	深井 聡太	三谷小学校	6年		大川 理央	八成小学校	5年	
	村田 晟	四宮小学校	6年		南保 春紀	杉並第六小学校	5年	
	橘 美莉愛	杉並第十小学校	5年		島崎 葵香	高井戸第三小学校	5年	
5班	深田 悠生	荻窪小学校	5年	5班	加來 杏奈	富士見丘小学校	5年	
	北御門 咲月	西田小学校	5年		小野 さやか	馬橋小学校	6年	
	森賀 颯大	高井戸東小学校	6年					

## 4. 引率者・学習指導者

伊井 希志子	教育委員会教育委員	鈴木 美貴	生涯学習推進課管理係主査
浮ヶ谷 優美	四宮小学校校長	田頭 和弥	生涯学習推進課管理係
斉藤 あずさ	桃井第四小学校主幹教諭	豊原 有希	生涯学習推進課文化財係
石田 翼	三谷小学校教諭	山口 京子	社会教育センター
保土澤 尚教	済美教育センター統括指導主事	色摩 翔	社会教育センター
今城 卓也	済美教育センター指導主事	大矢 悠貴	郷土博物館
本橋 宏己	生涯学習推進課長	小山 浩	済美教育センター理科教育指導担当

ほか看護師1名

## 小学生名寄自然体験交流事業(令和5年度)行程表

時間	1日目[12月26日(火)]		2日目[12月27日(水)]		3日目[12月28日(木)]	
	晴れ時々雪	最高気温 - 2.0℃ 最低気温 - 6.4℃	晴れ時々雪	最高気温 - 4.5℃ 最低気温 - 10.1℃	晴れ時々雪	最高気温 - 2.4℃ 最低気温 - 13.1℃
6			6:00	起床	6:00	起床
7	7:30	児童集合	7:00	休暇村コテージ発	7:00	休暇村コテージ発
	7:45	出発式	7:10	なよろ温泉サンピラー着(朝食)	7:10	なよろ温泉サンピラー着(朝食)
8	8:00	杉並区役所発	8:15	なよろ温泉サンピラー発	8:15	見送り式
			8:30	北国博物館着	8:25	なよろ温泉サンピラー発
9				北国博物館見学	8:55	もち米の里☆なよろ着
					9:15	もち米の里☆なよろ発
10	9:45	羽田空港着	10:00	名寄児童と対面式	10:35	旭山動物園着
	10:45	羽田空港発(JAL553便)		スノーシュー トレッキング & 宝探し		グループ行動
11						
			12:25	旭川空港着	12:15	昼食
12				12:45	名寄児童とお別れ式	
				13:00	旭川空港発	13:00
13					13:15	ピヤシリスキー場着
					14	
15:20	休暇村コテージ着	15:00	旭川空港着			
16					16:30	ピヤシリスキー場出発
					16:20	なよろ市立天文台きたすばる着 天体観測
17					17:05	なよろ市立天文台きたすばる着 プラネタリウム鑑賞
					17:20	なよろ市立天文台きたすばる発 なよろ温泉サンピラー着 入浴
18					18:30	なよろ市立天文台きたすばる発 なよろ温泉サンピラー着 入浴
					18:30	夕食
19					19:10	なよろ温泉サンピラー発
					19:20	休暇村コテージ着
20					20:10	なよろ温泉サンピラー発
					20:20	休暇村コテージ着
21			21:00	就寝	21:00	就寝

❄️ 結団式・第1回事前学習会 令和5年10月30日(月)

この日が初めての顔合わせ。自己紹介などを通じて一緒に学ぶ仲間や先生と交流を図り、名寄の気候や農作物、文化、歴史など様々なことを学びます。



❄️ 天文学習会 令和5年11月3日(金・祝)

天文学習会では、名寄市への理解を深め、杉並との違いに気づきを得ることができました。後半では天文台車「ポラリス2号」、天体望遠鏡で実際に天体観測を行いました。



❄️ オンライン交流会 令和5年11月18日(土)

名寄市とオンラインでつながりました。名寄市職員の皆さんから「北国博物館」や天文台「きたすばる」についてのお話を聞いたり、名寄市の児童とご当地クイズ大会をするなど交流を深めました。



❄️ 第2回事前学習会 令和5年12月1日(金)

学習課題の解決に向けて、自ら考え仲間と共有します。また、グループで旭山動物園での行動計画を立てます。



❄️ 名寄派遣 第1日目 令和5年12月26日(火)

区役所での出発式のあとは、早速、北海道名寄市へ向かいます。これからの3日間では、名寄の皆さんに話を聞いたり、観察・調査・実験をするなどして、事前に決めた学習課題の解決に取り組みます。



きたすばるでプラネタリウム鑑賞

天文台「きたすばる」でプラネタリウムを鑑賞し、名寄の星空について学びました。また、光学赤外線天体望遠鏡「ピリカ」を前に望遠鏡の仕組みを学びました。



実験タイムと学習のまとめ

夕食後は、それぞれ事前学習会で考えてきた名寄市だからこそできる実験に挑戦しました。



❄️ 名寄派遣 第2日目 令和5年12月27日(水)

北国博物館での調べ学習

北国博物館では、「名寄の気候・地形・動植物」や、「大昔から現在までの人々の生活」などについて、北国博物館職員の皆さんから学びました。



対面式・スノートレッキング

名寄市児童との対面式・交流タイムを行った後は、スノースラッシュ体験へ。深く積もった雪をかき分けながら、真っ白な林の中を歩きました。一緒に宝物を探す中で、杉並と名寄の児童の仲はより一層深まりました。



スノーモービル体験・天体観測

初めてのスノーモービル体験。スノーモービルに乗って、パウダースノーが待つ山の中腹を目指しました。たくさん体を動かした後は、天文台「きたすばる」に移動。屋上観測室で木星、土星、月を観測することができました。



❄️ 名寄派遣 第3日目 令和5年12月28日(木)

見送り式



名寄市を出発する私たちを、岸教育長をはじめ、お世話になった名寄の方々が見送りに来てくださり、温かな言葉をいただきました。途中、道の駅でお土産の買い物をし、旭山動物園へ向かいました。旭山動物園では、学習行動班ごとに自分たちで考えたルートで行動し、見学をしました。



道の駅



旭山動物園でのグループ行動



帰り道

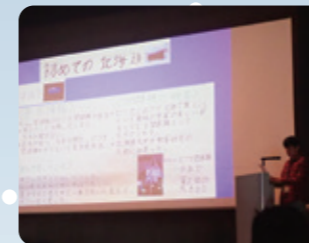


到着式



❄️ 学習成果発表会 令和6年2月3日(土)

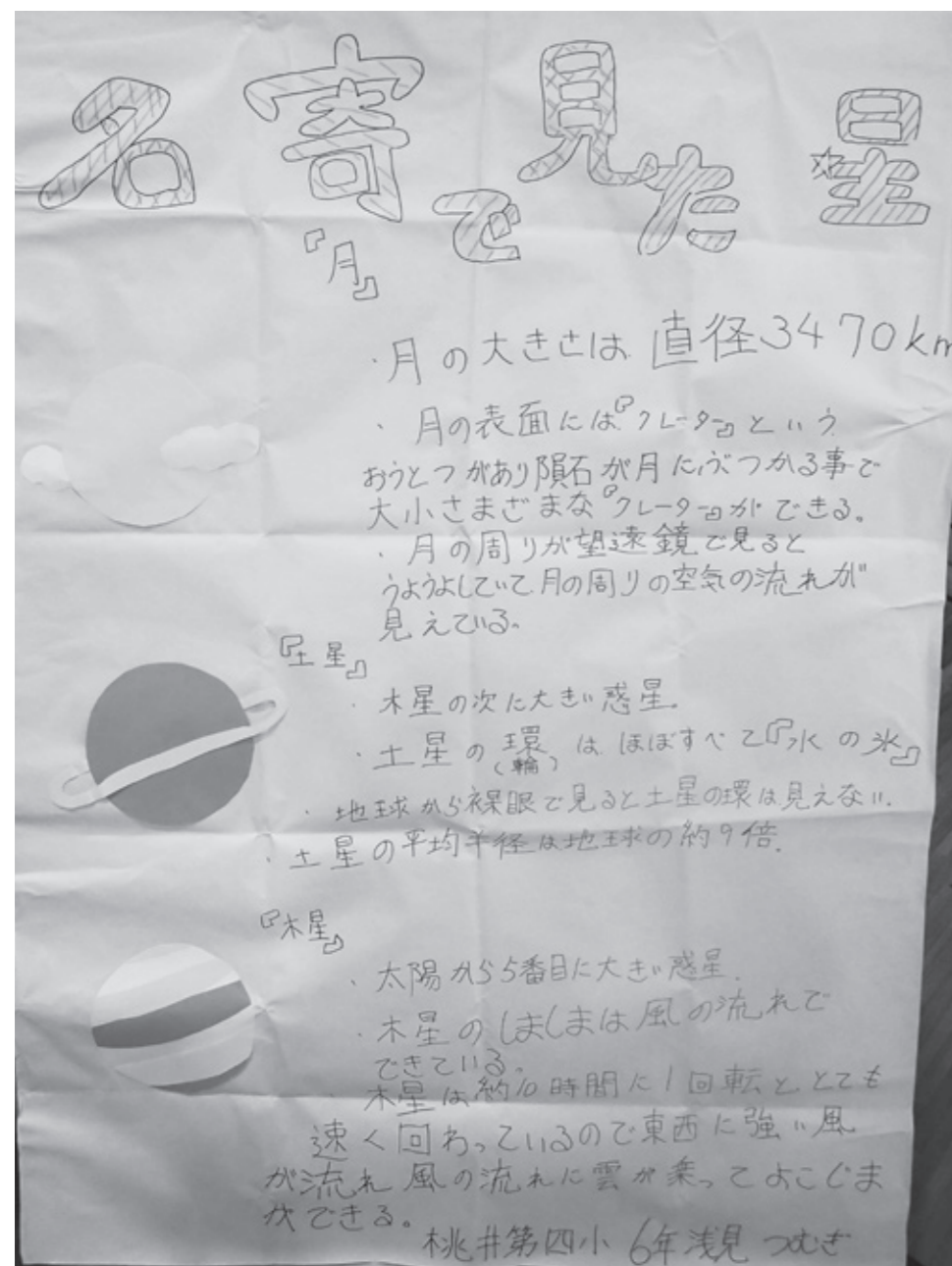
今回の交流事業を通して学んだこと、感じたことなどを、一人ひとりの児童が作品や作文にまとめステージ上で発表を行いました。



学校名	桃井第四小学校	6年	氏名	浅見 つむぎ
-----	---------	----	----	--------

### 名寄で見た星

私は、北海道名寄市でたくさんの事を体験してとてもいい思い出が出来ました。名寄に行く前は、とてもきん張して名寄市に行きました。名寄市での生活は、とても楽しくて杉並区では、出来ない体験をたくさんして特に雪で遊ぶのが楽しく、自分の体がうまるほどの雪は、忘れられません。そんな名寄で特に学んできた事は、名寄で見た星です。私が学んだ星は3つあります。1つ目は衛星の月です。ピリカ望遠鏡を使い、月を大きく細かく見る事ができました。特にクレーターというおうつが良く見えましました。クレーターは、月の表面に隕石があたることでできます。望遠鏡で月を見た時に月の周りが飛行機のエンジンの後ろみたいにうようよしています。なぜだと思いませんか？理由は、月の周りの空気の流れが見えています。目でも見えるほどの空気の流れが見えていると思うと月の周りが、とても空気の流れが速いということを名寄で学びました。2つ目は、惑星の土星です。土星の大きさは、木星の次に大きい惑星です。土星には、輪っかが付いているけれど輪のほぼ全てが水の氷でできています。土星の半径の大きさは地球と比べると約9倍です。3つ目は、木星です。木星はガスのかたまりでできていて、人は立つこともできないそうです。木星の横じまがでできる理由は木星はとても速く回っていて約10時間に1回転と、回っているので東西に強い力が起こり風が流れ、風の流に雲が乗り横じまに見えています。私は名寄で星が見れましたが、天候が悪いと見れなかった星なので天候にめぐまれて見る事が出来ました。名寄での自然体験交流会でたくさんの良い思い出ができました。



学校名	大宮小学校	6年	氏名	山内 遼馬
-----	-------	----	----	-------

### 初めての北海道

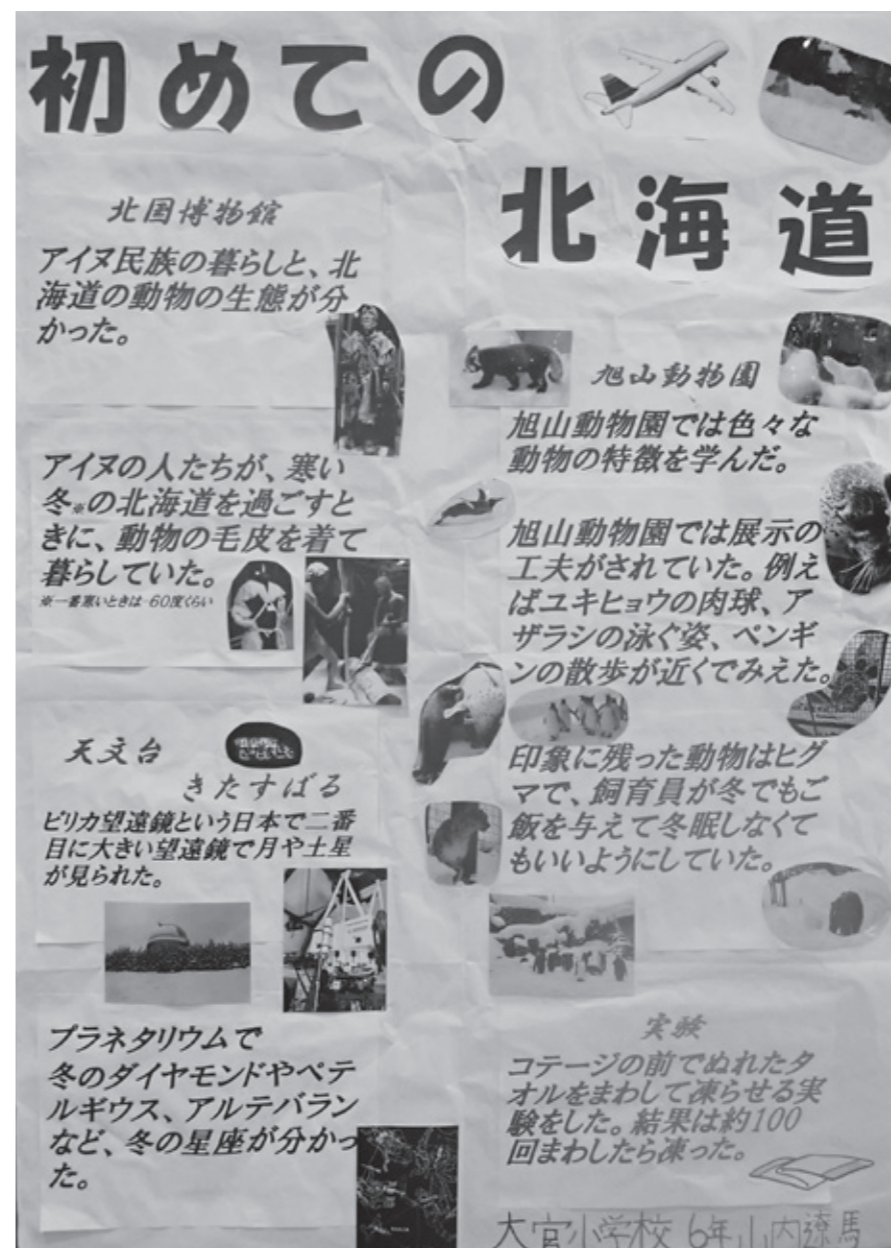
ぼくが名寄に行って学んだ事は、大きく三つあります。一つ目は、北国博物館でアイヌの暮らしと北海道の動物の生態についてです。アイヌの人たちは北海道の寒い冬でも動物の生皮で服を作ってくらしていたそうです。また北海道は陸続きだったため日本の中で北海道にしか生息していない動物がいることを学びました。例えばシマエナガやキタキツネ、シマフクロウなどです。ここでは北海道の歴史や特ちょうを学ぶことができたため、ますます北海道のことをよく知りたいと思うようになりました。

二つ目は、なよろ市立天文台きたすばるで星や星座について学んだことです。ピリカ望遠鏡は日本で二番目に大きい望遠鏡で月や土星が見られました。またプラネタリウムでは、冬のダイヤモンドやペテルギウス、アルテバランなど、冬に見られる星座が分かりました。きたすばるで星について、勉強できたため、コテージから見えるきれいな星空も興味をもって観察しました。するとそのときは杉並区より

星がとてもきれいにみえました。

三つ目は旭山動物園でいろいろな動物の特ちょうを学んだことです。名寄に行く前から、動物園に行く事が一番楽しみだったのでインターネットでも動物の生態やマヌルネコについて詳しく調べました。旭山動物園は動物の展示の仕方が工夫されているため、ユキヒョウの肉球やアザラシの泳ぐ姿やペンギンのさん歩を近くで見ることができました。

特に、ヒグマを見たときは冬に冬みんしなくてもいいようにえさをたくさんあたえていたのでそこも旭山動物園の工夫だと思いました。もともと動物が大好きなので多くの動物の他の動物園では、見る事ができない様子が見られてとても楽しかったです。

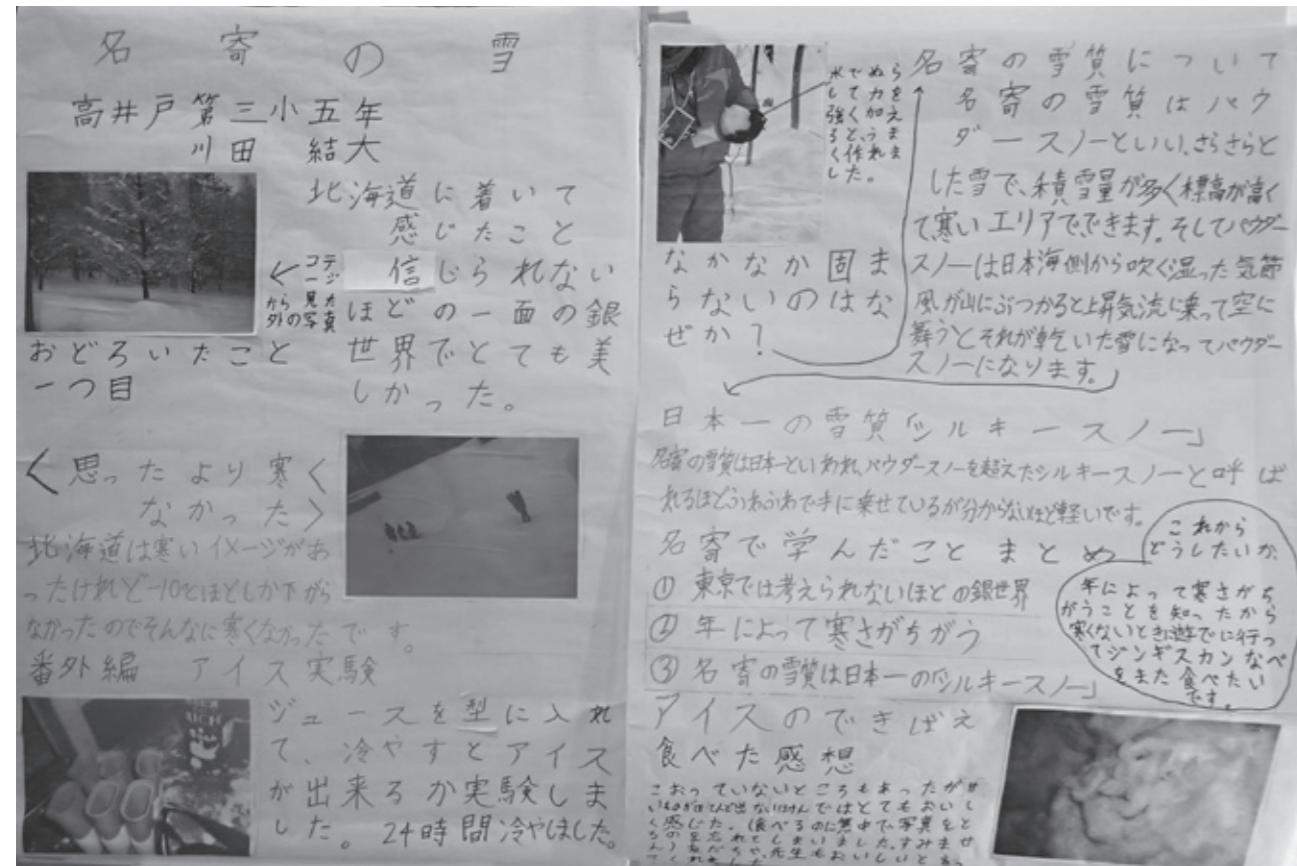


学校名	高井戸第三小学校	5年	氏名	川田 結大
-----	----------	----	----	-------

### 名寄の雪

ぼくが名寄でおどろいたことが、三つあります。一つ目は想像のできないほどの銀世界でとても美しくあったことです。二つ目は案外そこまで寒く感じないということです。冬の北海道は、とても寒いイメージがあったので少し安心しました。ただぼくらの行った時期が寒くないのか、または厚着していたせいかもしれませんが北海道は皆さんが想像しているほど寒く感じないです。そして最後は雪合戦のとき、雪だまが作れないということです。雪だまを作ろうとすると必ずとっていいほどくずれてしまいます。なぜなら名寄の雪質は日本一の粉雪いわゆるパウダースノーだからです。そこでパウダースノーについて調べたところパウダースノーとは積雪量が多く、標高が高く、寒いエリアでできるさらさらとした粉雪のことをさします。さらに粉雪は他の雪と比べて、水分量が少なく、不純分が少ないのが特ちょうです。このような雪質の場所は水を使うことをおすすめします。名寄の雪質は日本一と言われ、先ほどしようかいしたパウダースノーを超えたシルキースノーでパウダースノーとはちがいさらさらよりもふわふわでまるできぬのような雪でした。実際に雪を手のにのせてみるとまるでのせていないような軽さでした。なぜこのような雪質になるかという、日本海側から冷たく、湿った季節風が山にぶつかると、雪の結晶は上昇気流にのり上空に舞い上がりそれが、乾いた雪となってパウダースノーになります。また、ぼくは雪にうめてアイスを作りました。ジュースをアイスパーの容器に入れて丸一日冷やしました。固まっていなかったところもありましたが甘味の少ないはけんではとてもおいしく感じました。食べることに夢中で写真を撮るのを忘れるほどでした。

名寄はとてもいいところでした。地いきの方々もやさしかったですし、きたすばるで見た「月」「土星」「木星」どれもきれいでした。そして食事。とくににこみジンギスカンなべなんかはさいこうでした。皆さんも機会があればいってみてください。



学校名	杉並第十小学校	5年	氏名	小原 颯稀
-----	---------	----	----	-------

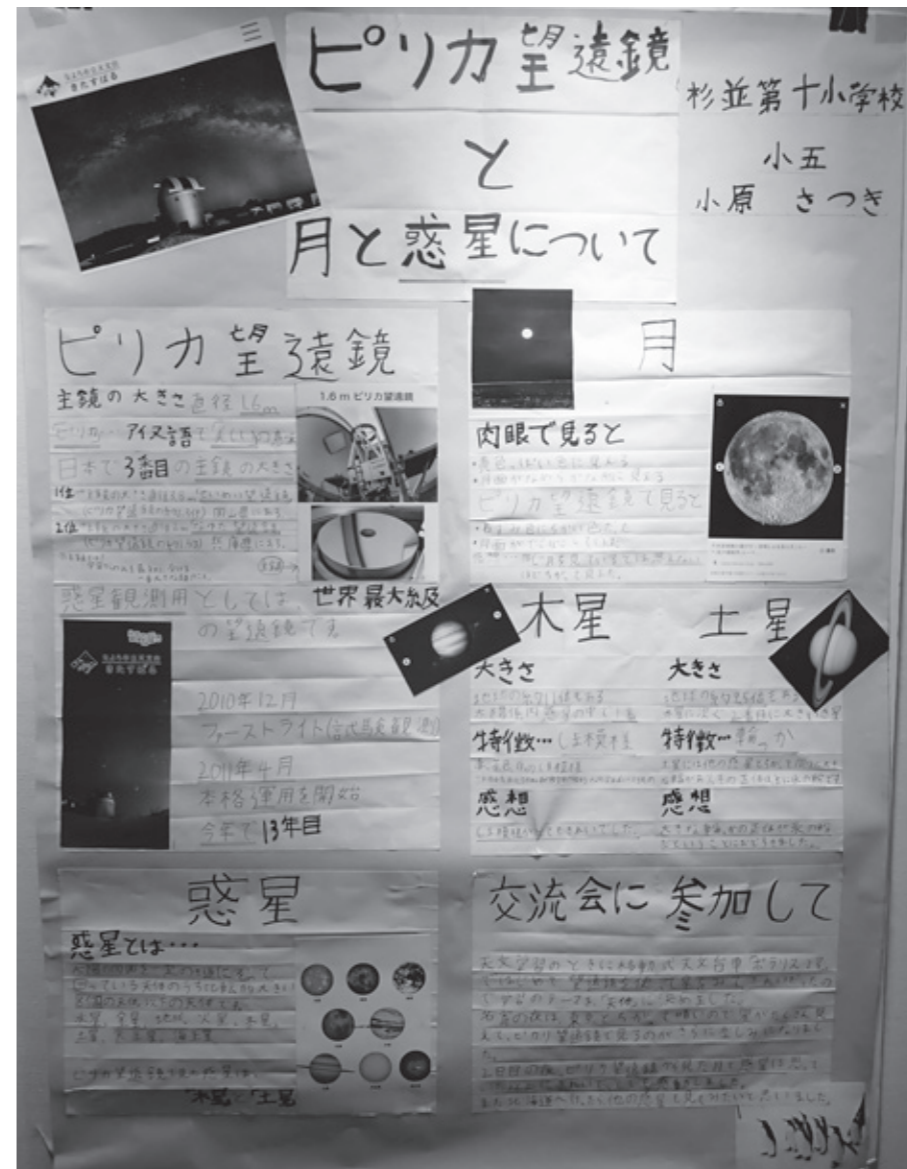
### ピリカ望遠鏡と月と惑星

わたしが、名寄自然交流で学んだことはピリカ望遠鏡と月と惑星についてです。一つ目は、ピリカ望遠鏡についてです。わたしが一番おどろいたことは、望遠鏡の鏡の大きさが直径1.6mもあり、わたしの身長よりも大きかったことです。望遠鏡の「ピリカ」は、アイヌ語で「美しい」という意味です。ピリカ望遠鏡とそのとうさい観測装置は太陽系内惑星の観測的研究のために特化されており、惑星観測用としては世界最大級です。望遠鏡についている鏡の大きさは、国内で3番の大きさだそうです。一位は、鏡の大きさ直径3.8mのせいめい望遠鏡（岡山県）で、二位は鏡の大きさ直径2mのなゆた望遠鏡（兵庫県）です。ピリカ望遠鏡を使って、月と惑星が見れました。肉眼で見るとは全くちがって見えました。2010年12月にファーストライト（試験観測）2011年4月に本格運用を始め、今年で13年目です。

その望遠鏡を使って見た、月と惑星について次に発表します。天文学習のときに移動天文台車で木星と土星を見て、とてもきれいだったので興味をもちました。月

は肉眼で見るとなめらかな形ですが、ピリカ望遠鏡で見ると月面がでこぼこしていました。惑星は、8つあり、水星と金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星です。その中でピリカ望遠鏡で見たのは、木星と土星の2つです。木星は、しまもようがとてもきれいで、大きさは地球の約11倍、太陽系内惑星の中で一番大きな惑星です。土星は、他の惑星とちがって、周りに大きな輪があります。その輪の正体は、主に氷の粉でした。そのことにとてもおどろきました。

わたしは、この交流事業に参加して天文に興味をもちました。そして、他の惑星や、太陽についても学びたいくなりました。プラネタリウムの説明も分かりやすく楽しかったです。また、北海道に行く機会があればきたすばるへ行きたいです。



学校名	永福小学校	5年	氏名	吉永 花乃
-----	-------	----	----	-------

### ここがスゴイぞ！旭山動物園

私になぜ旭山動物園の造りの工夫について調べたかという、学校の授業で「ペンギン館」を考えた人の思いについて学んだからです。

名寄に行く前に造りの工夫や復活劇を本やDVDで調べましたが、実際はどうだったのかを伝えたいと思います。

旭山動物園は旭川市の人口の3倍となる百万人の入園者数をほこる人気動物園です。その理由は動物園独自の展示方法にあります。それはこの3つのうちのどれでしょう！

1 形態展示 2 生態展示 3 行動展示 答えは模造紙に書いてあるので見て下さい。

まず最初に「ペンギンの散歩」について紹介します。

野生のペンギンがえさを集団で獲りにいく習性を活かして散歩しているそうです。この活動は自主参加のため、今回は9羽でした。

ペンギンはやんちゃで、時にはこけてスタート地点に戻りそうになった姿がとても可愛かったです。冬にしか見れないので寒かったけど見れて良かったです。

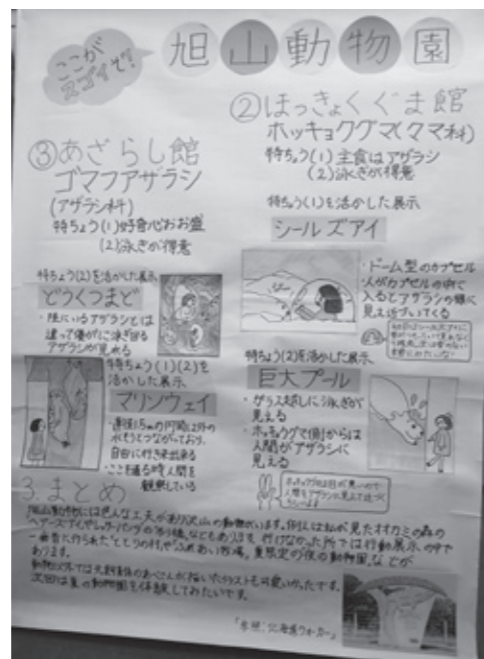
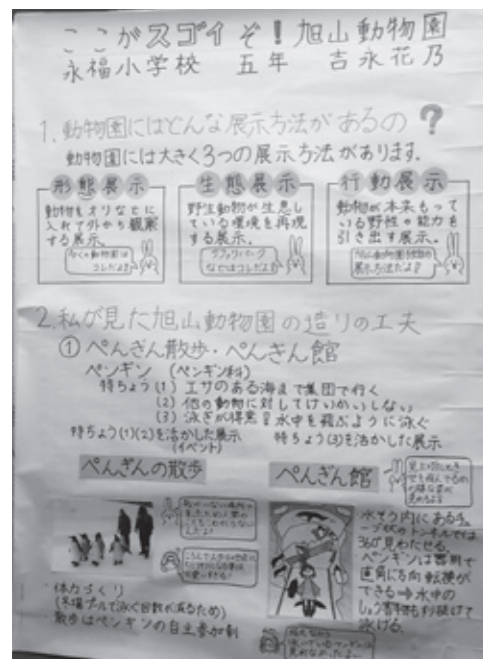
「ペンギン館」では自由に方向転換ができ、かわいい泳ぎでえさを獲らえる習性を活かして障害物を置いています。「水中トンネル」で泳いでいる姿は見れませんでした、実際に泳いでいたら青い空の中を飛んでいるかの様なペンギンが見れたと思います。次回は絶対に見たいと思います。

「ほっきょくぐま館」では、氷の割れ目から息継ぎのために頭を出すアザラシを獲る習性を活かした展示を見ました。「シールズアイ」というドーム型のカプセルでは、お客さんはアザラシの視点からホッキョクグマを見ることが出来ます。しかし雪が積っていたのでこちらに気付いてくれませんでした。その他にも「巨大プール」では、ホッキョクグマからはお客さんがアザラシに見えさだと思ひ飛び込みます。お客さん側からはダイナミックな飛び込みや泳ぎ、浮き輪などで遊ぶようが見れます。しかし巨大プールで泳ぐホッキョクグマは見れず残念でした。

「あざらし館」では好奇心おう盛でとこにでも行きたがる習性のあるアザラシを見ることが出来ます。そこには自分が水中にいる様に感じる「どうくつまど」や「マリンウェイ」という筒状の水そうもあります。「マリンウェイ」ではアザラシが楽しく泳いでいましたが、お腹が大きいので2匹同時に入った時は身動きがとれなくなっていました。私はアザラシが近くにいたので、可愛いくて思わずガラス越しにさわってしまいました。

旭山動物園は色々な工夫があり、今紹介した以外の物もとても面白く、館内の絵もとても可愛いく描いてありました。でも予想外にも動物園が広がったので迷いそうでした。

今回見れなかった工夫や回りきれなかった場所に次回は行ってみたいです。



学校名	桃井第四小学校	5年	氏名	近藤 すず花
-----	---------	----	----	--------

### 名寄の星と自然

わたしは、名寄市に行って学んだ事が毎日たくさんありました。その中でも、星が好きな事と、北海道の空気が杉並区と違っておいしかったので、星と自然についてまとめました。

まず、星を見るためのピリカ望遠鏡ですが、ピリカとは、アイヌ語で、「美しい」を意味します。口径は1.6mで、倍率は人の眼で見る大きさの約600倍ということで、とても大きく見えました。また、公開している中では、日本で2番目に大きな望遠鏡なので、すごいと思いました。わたしが、望遠鏡で見たのは、いん石がぶつかってできた、月のクレーターと、木星のガスでできた横しまと、土星のちりや氷でできた輪と、シリウスのA、Bの星です。肉眼では、細かいところまではよく見えませんが、どれもはっきり見えて、とてもきれいでした。月はとてもよく光っていて明るかったです。

自然については、北国博物館で学んだ四季の自然現象とイベントをまとめました。

冬は自然現象は、雪の結しようが太陽の光に反しゃして見える「ダイヤモンドダスト」、太陽の光のすじが、たてに長く見える「サンピラー」、サンピラーのライト版の「ライトピラー」、強風で、ふった雪がまい上がる「けあらし」などです。

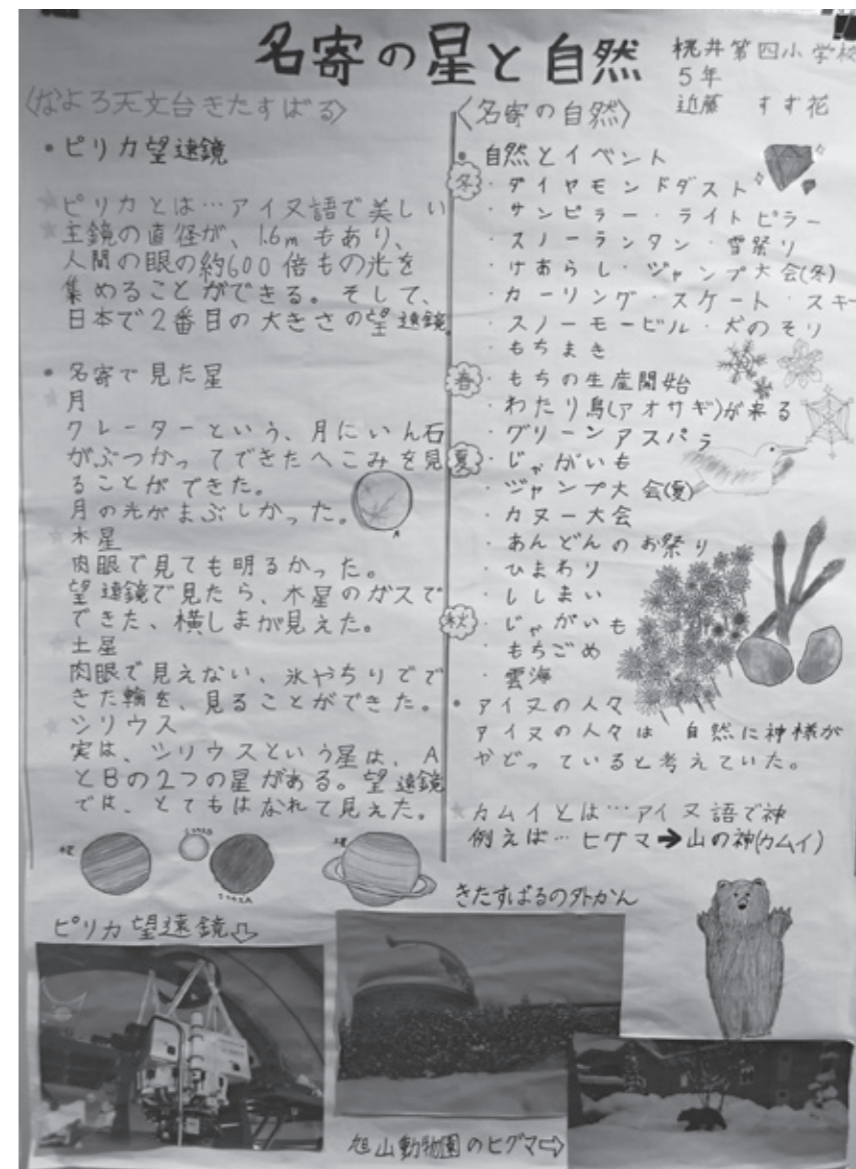
イベントは、「雪祭り」、「もちまき」、「スキー」、「犬のそり」、「ジャンプ大会」、「カーリング」、「スケート」、「スノーランタン」、「スノーモービル」などがあります。

春の自然は、わたり鳥がやって来ます。他にはグリーンアスパラのしゅうかくが、4~5月にあります。そして、もち米の生産を開始します。

夏の自然は、じゃがいもをしゅうかくし、ひまわりがたくさんさきます。イベントは、「ジャンプ大会」、「カヌー」、「あんどんのお祭り」、「しまい」などがあります。

秋の自然は、もち米とじゃがいものしゅうかくをします。他には、雲海が見えます。

わたしは、3日間友達と一緒にグループ行動をして、楽しく学べました。これからも色々な所に旅をした時、名寄で教わったことをいかして、星の観察をしたり、イベントにも参加したりしてみたいです。





学校名	松ノ木小学校	5年	氏名	柳沢 早紀
-----	--------	----	----	-------

### 北海道の動物

わたしは北海道の動物を調べました。

東京は冬があたたかいのでカラスなどの動物がたくさんいます。ですが北海道の冬は寒く、雪がたくさんふるのでカラスなどの動物は東京のように自由にすごすことができないと思います。寒く雪がふる北海道の動物について北国博物館と旭山動物園で調べました。

始めに北国博物館で調べた動物を3種類紹介します。

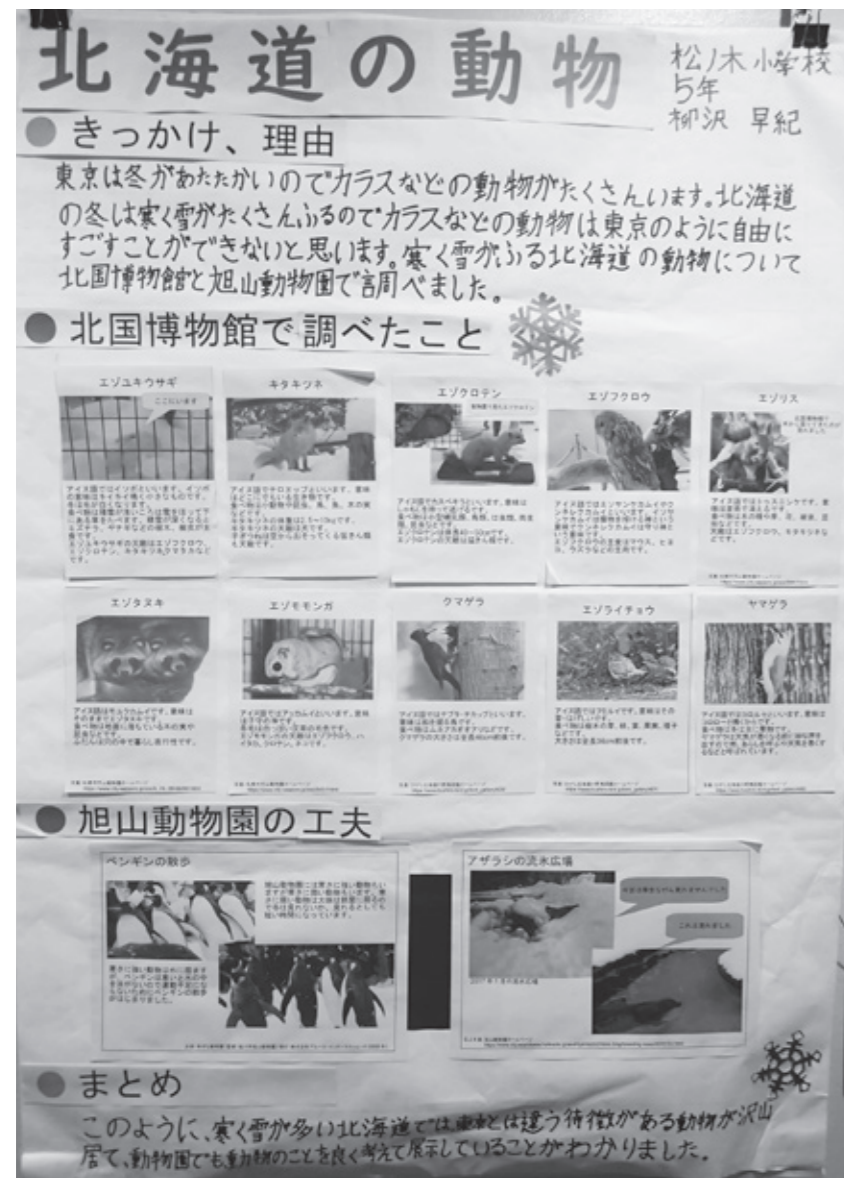
1種類目はエゾユキウサギです。アイヌ語ではイソポです。意味はキイキイ鳴く小さなものです。冬の食べ物は積雪が浅いところは雪をほって下にある草をたべます。積雪が深くなるとミズナラ、ヤナギなどの樹木、樹皮を食べます。冬は毛が白くなります。エゾユキウサギの天敵はエゾフクロウ、エゾクロテン、キタキツネ、クマタカです。

2種類目はエゾモモンガです。アイヌ語ではアッカムイです。意味は子守の神様です。冬の食べ物はシラカバ、ハンノキ、カラマツなどです。夏毛は茶色で冬毛は白っぽい灰色の毛色です。エゾモモンガの天敵はエゾフクロウ、ハイタカ、クロテン、ネコです。

3種類目はエゾクロテンです。アイヌ語でカスペキラです。意味はしゃもじを持ってにげるです。冬の食べ物は小型哺乳類、昆虫などです。エゾクロテンの天敵は猛きん類です。

次に旭山動物園の工夫について説明します。旭山動物園には寒さに強い動物も弱い動物もいます。寒さに弱い動物は大体は部屋にいるので冬は見れないか、見れても短い時間になっています。寒さに強い動物は外に居ますが、ペンギンは寒いと水の中を泳がないので運動不足にならないためにペンギンの散歩がはじまりました。また今回は見れませんでした。アザラシの流水広場も寒いと作られます。

このように、寒く雪が多い北海道では、東京とは違う特徴がある動物が沢山居て、また、動物園でも、動物のことを良く考えて展示していることが分かりました。



学校名	三谷小学校	6年	氏名	深井 聡太
-----	-------	----	----	-------

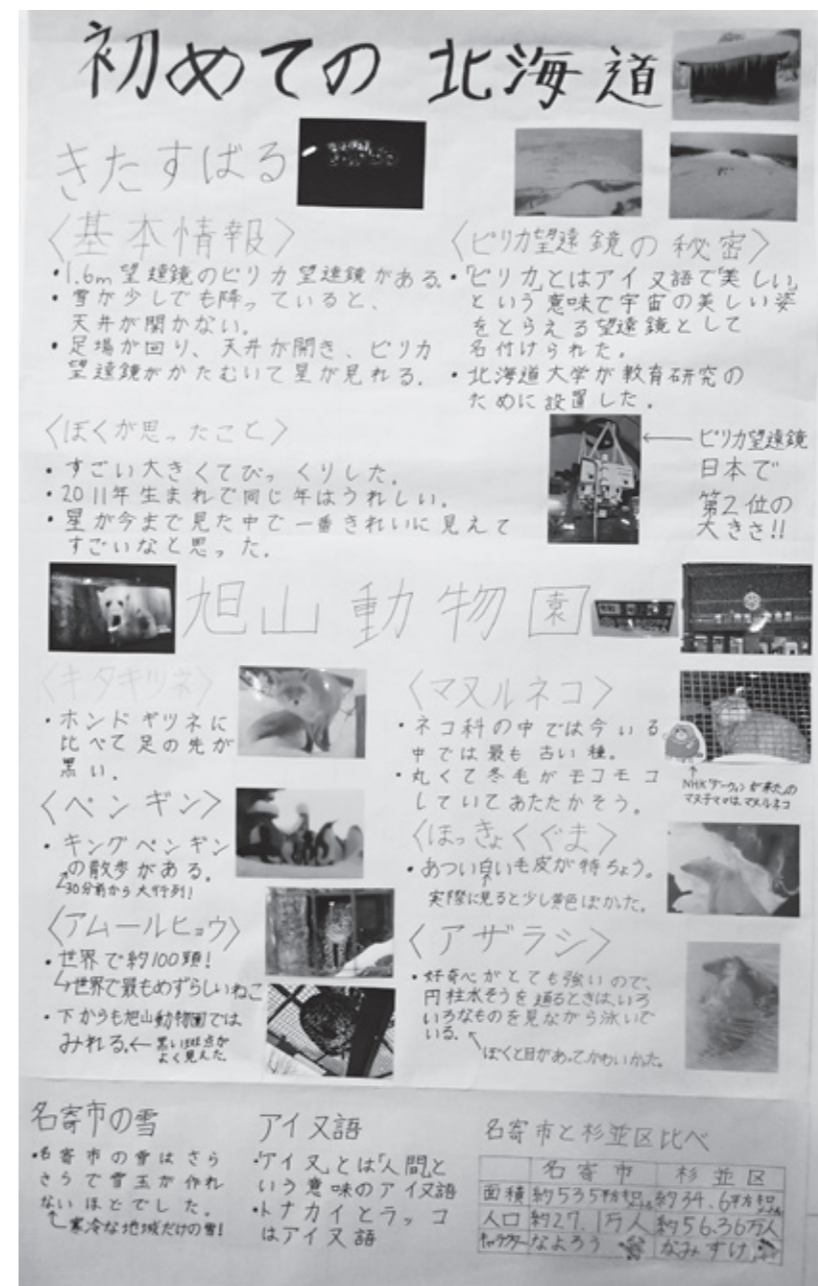
### 初めての北海道

ぼくは、北海道でしかできない体験をしたかったので、名寄自然体験交流事業に応じました。

まず一番印象に残っているものは星です。きたすばるでは、ピリカ望遠鏡について学びました。1日目は、ピリカ望遠鏡の中には、1.6 mもの大きさの鏡が入っていて、人間の視力が600倍もよくなり、星が見られるということを知りました。その後、プラネタリウムで実際に星座を映してもらい、オリオン座などの星座、冬の大三角形などについて学び、星座の中の一等星や星座の名前についてくわしくなれました。2日目は、少し雪が降っていて、心配でしたが、運よく、きたすばるの天井が開き、星を見ることができました。東京でも星を見ましたが、木星のしまがよく分かりませんでした。でも、ピリカ望遠鏡で見ると、くっきりとしまが見えました。東京では見ることができない星の細かな部分まで見られてとてもうれしかったです。今度は、夏に行き、夏の星座を見てみたいです。

2つ目に印象に残っているのは旭山動物園です。寒いところにいるアザラシ、ホッキョクグマやキタキツネ、マヌルネコは、見るからにあったかそうな毛皮におおわれていて、夏は暑いから毛がぬけるのかなと思っていたら見ました。それから旭山動物園の名物ペンギンの散歩。それはよちよち歩くペンギンがとてもかわいく、もう一回みたいと今も思います。ぼくが好きなヒヨウは、下からも見られ、にらんでる顔が見られてうれしかったし、とってもかっこよかったです。旭山動物園は、寒い場所だから見ることができる動物がたくさんいて、そこで動物を見られた体験はとても印象に残っています。

他にも、雪遊びやスノーシュートレッキング、スノーモービル、ジンギスカンを食べられたり、寒さを体験でき、すごい楽しかったし、いろいろなことを学ぶことができました。それに、北海道でしか体験できないこともたくさんできました。これからはこのことをいかして生活していきたいと思えます。



2班

2班

学校名	四宮小学校	6年	氏名	村田 晟
-----	-------	----	----	------

### 私と名寄市

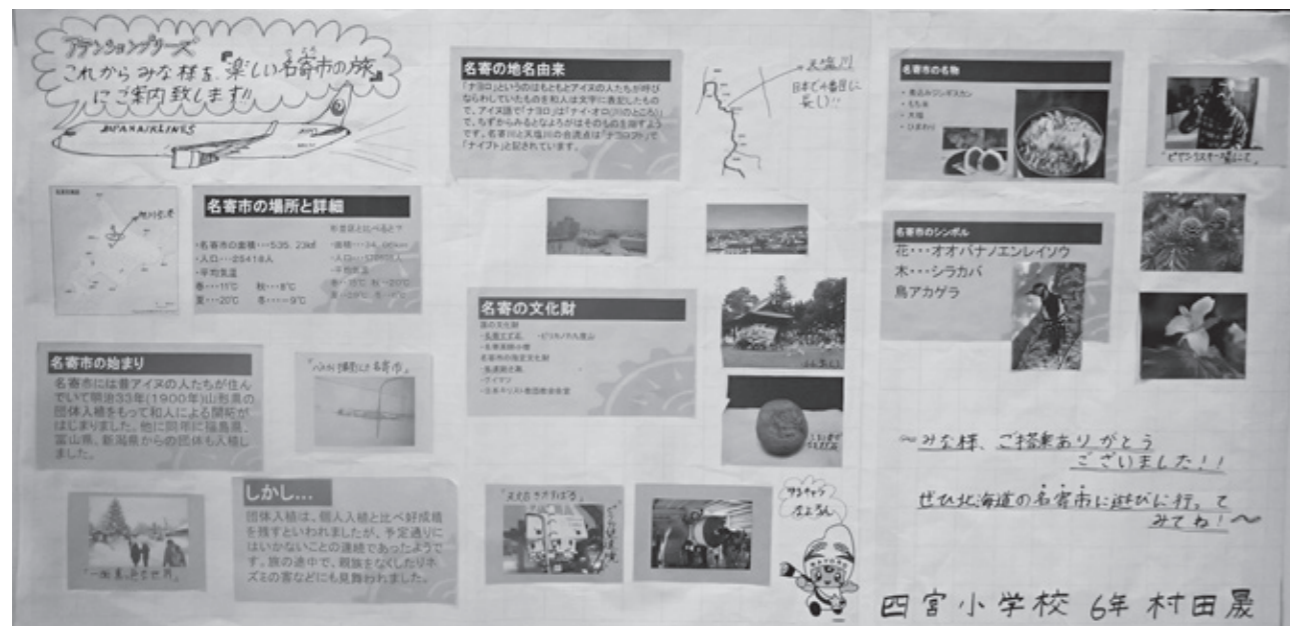
私は、初めて名寄市に着いた時、「広々としていて真っ白な世界だな」と思いました。ビルが多く雪が降ることがあまりない東京では見る事の無い景色でした。最初からスキーウェアを着ていても肌寒いと感じました。

名寄市は北海道のまん中あたりで、旭川空港から車で約1時間半、羽田空港から考えると3時間半程度で「北北海道」の入口です。ナヨロの地名の由来は、もともとアイヌの人たちが呼びならわしていたものを、開拓者が文字に表記したもので、アイヌ語で「ナイ・オロ（川のところ）」のことで、地図から見ると名寄川そのものを指すようです。また、天塩川という日本で4番目の長い川が流れており、昔は舟着場があったようです。

名寄市の文化財としては風連ししまいが有名で、郷土芸能として大正以降今でも受けつがれています。明治36年ごろから、富山県からの移住者が多く、富山県のししまいが、伝わったようです。私のお父さんは、富山県出身なのでこのことを知った時、ぼくと縁があったのだなと嬉しくなりました。他にも、ぼくたちが行った名寄天文台きたすばるがあります。公開しているなかでは国内2番目の大きさとなる北海道大学のピリカ望遠鏡があります。見学に行ったときは、想像よりも大きく、月の表面がきれいに見えたときは感動しました。ピヤシリスキー場も雪質が良く有名です。そこでのスノーモービルや雪遊びは本当に楽しく最高でした。

次に、名寄のソウルフードですが、何といたってこみジンギスカンで、ふつうは焼くのが一般的ですが、名寄地方はすき焼きのように煮こみます。私も、なよろ温泉サンピラーで食べましたが肉がやわらかく本当に美味しかったです。また名寄は、農業がさかんなので、もち米が有名で、市内の水田のおよそ9割がもち米という、日本有数のもち米の産地です。おみやげにもち米の和菓子を買ってきましたが家族からも好評でした。

私はこの名寄自然体験交流事業に参加し、「初めて」の体験をたくさんしました。ふかふかの雪の上を歩くのはとても大変で足がつかれます。ぬれたタオルをふり回すと、5分くらいで本当に棒状になり凍ります。寒い地域で生活するのは大変な事も多いだろうけど、星がきれいに見え、真っ白な雪の景色が毎日見られるのもすばらしいと思います。2泊3日ドキドキあつという間でした。一生の思い出になりました。今度は夏の名寄市にも行ってみたいと思いました。



学校名	杉並第十小学校	5年	氏名	橘 美莉愛
-----	---------	----	----	-------

### 名寄市で感じたみりよく

私は名寄市に行って、たくさんのことを学びました。その中でも印象に残った名寄市のすごい所を紹介します。まず始めに名寄市内で発見したものです。こちらの写真はスノーポールといって、雪が高く積もっても車道と歩道の間はこの棒が立っていることによって、車が通る道がわかるようになっています。こちらの写真は信号機です。杉並と違ってたて型になっているのは、積雪による信号機への負担をかるくするためです。次に名寄市の家づくりについてです。寒さを防ぐために窓が二重になっていたり、屋根が三角になっていることで屋根から雪が落下する場所をコントロール出来、安全です。そして、この屋根からしたたる雪溶け水が凍ることによる「つらら」を初めて見る事ができました。屋根以外にも電灯や手すりなどいたる所につららがあり、こんな所にもあるんだと驚きました。そんな雪国北海道の生産日本一の食べ物にはアスパラガス、かぼちゃ、もち米が挙げられます。もち米を原料として作られるソフト大福は名寄の名物土産でとても美味しくおすすめです。そして名寄では、季節を感じる恒例行事が一年中行われている事を知り、杉並では出来ない事ばかりで、私も参加したいと思いました。次に私が行った二つの実験についてです。“実験一”雪の中で冷凍みかんはできるのか？この実験ではみかんを一日で凍らすことが出来ました。調べると、みかんなどの果物はマイナス5度で凍るそう。当日の気温がマイナス4.9度だったため、作ることが出来ました。“実験二”凍ったシャボン玉をさわりたい！これは残念ながら失敗に終わりました。この日は風が強く気温が高かった為、シャボン玉が凍るどころか、作ることも大変でした。ちなみにシャボン玉が凍るとこのようになるそうです。旭山動物園では寒い雪の中でたくましく生活する動物たちをみて、この光景は杉並で見る事はできないので印象に残っています。“まとめ”名寄は自然に恵まれていて、美味しい食べ物がたくさんあった。寒さと共に生きる名寄の人々は、気候を生かした遊びや観望、生活の知恵など、杉並とは違う生活を送っていることがわかった。お互いの暮らしの魅力を伝えあい、お互いの地域の良さを感ずることができた。



2班

2班

学校名	桃井第一小学校	6年	氏名	星野 歩実
-----	---------	----	----	-------

## アイヌの文化

私は、この小学生名寄市体験交流事業を通して、アイヌの文化について、大きく七つのことを知ることができました。

一つ目は、弥生時代がなかったということです。弥生時代はお米を作る時代です。しかし、北海道は寒すぎてそもそもお米が育ちませんでした。そのため、本州の弥生時代、北海道は縄文時代と同じような生活をしていました。これを続縄文時代と呼びます。

二つ目は、交易です。アイヌ人と、本州に住む和人との交易では、アイヌ民族が服、和人はアクセサリーや壺などと交換していたそうです。

三つ目は、除雪するための道具です。今とあまり変わらないものと、大きく違うものがあります。今と変わらないものはシャベルです。木造で、除雪の仕方今と同じです。しかし、三角そりは違います。三角そりは、馬に引かせて道を除雪していたそうです。

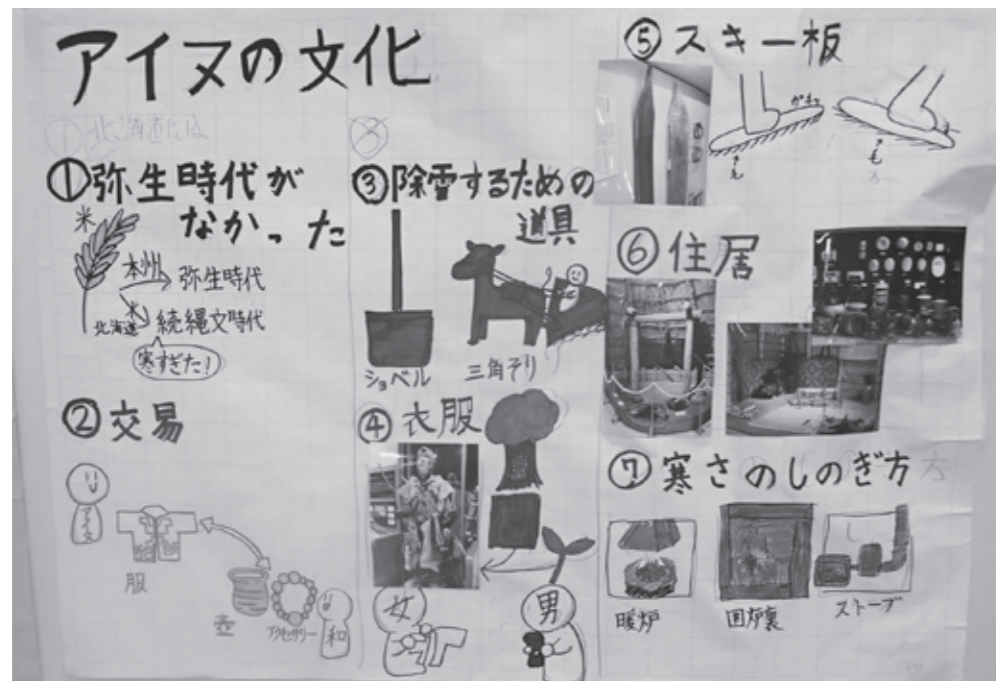
四つ目は、衣服です。アイヌ民族の服は、独特な刺繍が施してあり、魔よけの意味があったそうです。木の皮や植物なども服にしていたそうです。交易にもよく出されていました。ちなみに、女性は刺繍、男性は木彫りがうまいとモテていたそうです。

五つ目は、スキー板です。スキー板の裏面にはアザラシの毛皮をはって、登る時は毛が逆らって滑らず、降りる時は滑るようにしていたのです。

六つ目は住居についてです。アイヌ民族の家は、竪穴式住居の和人の家と比べて、壁や窓もあり、今と近い構造をしていました。また、家の中では神を祀ったり、交易で手に入れたツボを飾っていたそうです。しかし1869年頃から開拓が始まると、本州から移築された家に住み始めました。その家は寒かったため、ストーブで寒さをしのいでいたそうです。

七つ目は、寒さのしのぎ方です。寒さをしのぐ方法は、暖炉、囲炉裏、ストーブなどいろいろ使っていました。燃料は、木の化石や石炭を主に使っていたそうです。また、ストーブの熱でお湯を沸かしていたそうです。

私は、小学生名寄自然体験交流事業でアイヌの文化について学ぶことができました。その上で、アイヌを舞台とした漫画や本を読みたいと思います。



学校名	桃井第五小学校	5年	氏名	沢井 奈月
-----	---------	----	----	-------

## 三日間で私が学んだこと

私が三日間で学んだことは四つあります。

一つ目は、旭山動物園のヒグマのことです。ヒグマは、冬は冬眠しているのに冬でもヒグマを見れたということにおどろきました。そこで、旭山動物園HPで調べてみると「冬でも毎日エサが食べられるので冬眠しない」そうです。

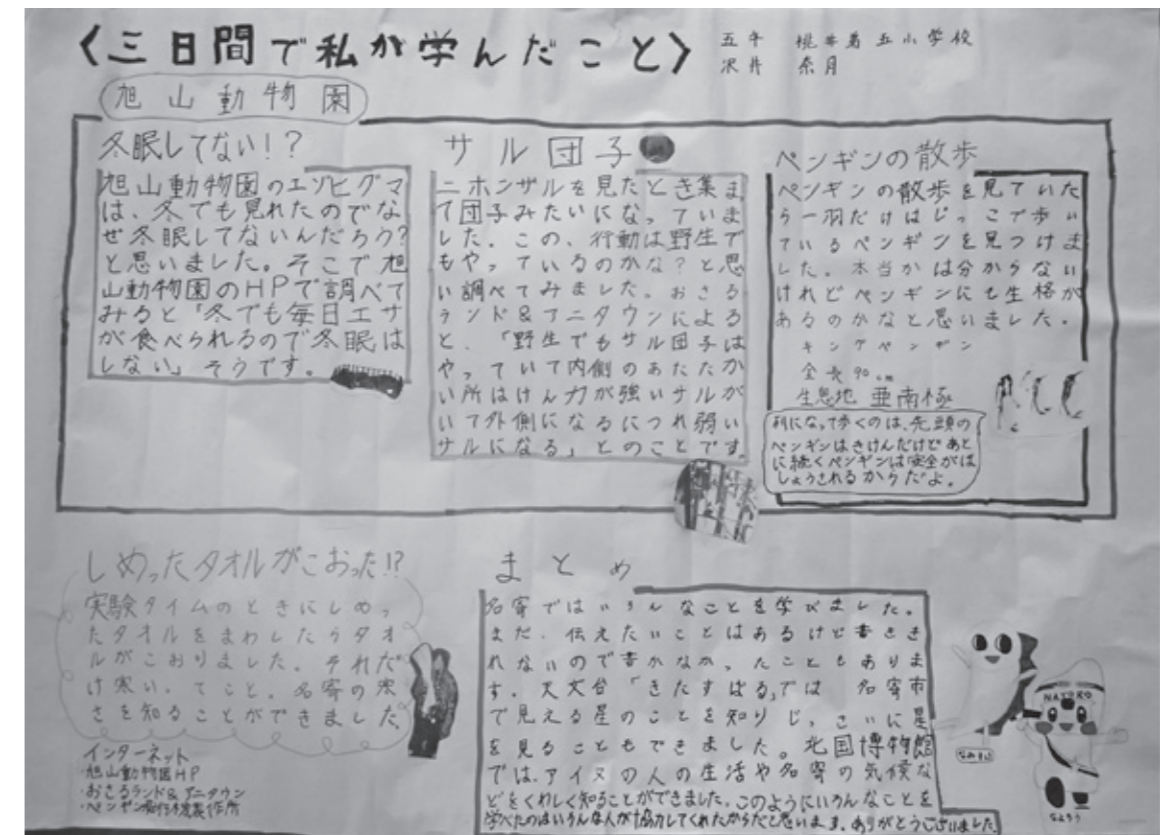
二つ目は、ニホンザルのことです。旭山動物園でニホンザルを見たときに集まって団子みたいになっていました。野生でもこの行動をしているのかなと思い調べてみると野生のサルも団子になる行動はやっていて、内側のあたたかい所はけんかが強いサルがいて外側になるにつれ弱いサルになるそうです。

三つ目は、ペンギンの散歩のことです。一羽だけで歩いているペンギンを見つけました。本当かは分かりませんがペンギンにもせいじがあるのかなと思いました。ペンギンの散歩で歩いているペンギンは、キングペンギンで全長九十cmで生息地は温だんな亜南極です。ペンギンが列になって歩くのは、先頭はきけんだけあとに続くペンギンは、安全がほしょうされるからです。

四つ目は、しめったタオルがおったことです。実験タイムのときにしめったタオルを勢よくブンブンまわしてみたらタオルがおりました。それだけ寒いということの表れです。名寄の寒さを実感することができました。

私はこの三日間でいろんなことを学んだと思います。まだ、伝えたいことはたくさんあります。天文台「きたすばる」では名寄市で見える星のこと、実際に星を見ることもできました。北国博物館では、アイヌの人の生活や名寄の気候のことなどをくわしく知ることができました。

このように、いろんなことを学べて帰ってこられたのはいろんな人が協力してくれたからだと思います。感謝しています。本当にありがとうございました。



3班

3班

学校名	西田小学校	5年	氏名	劳 拉
-----	-------	----	----	-----

### 名寄 - 北国の生活

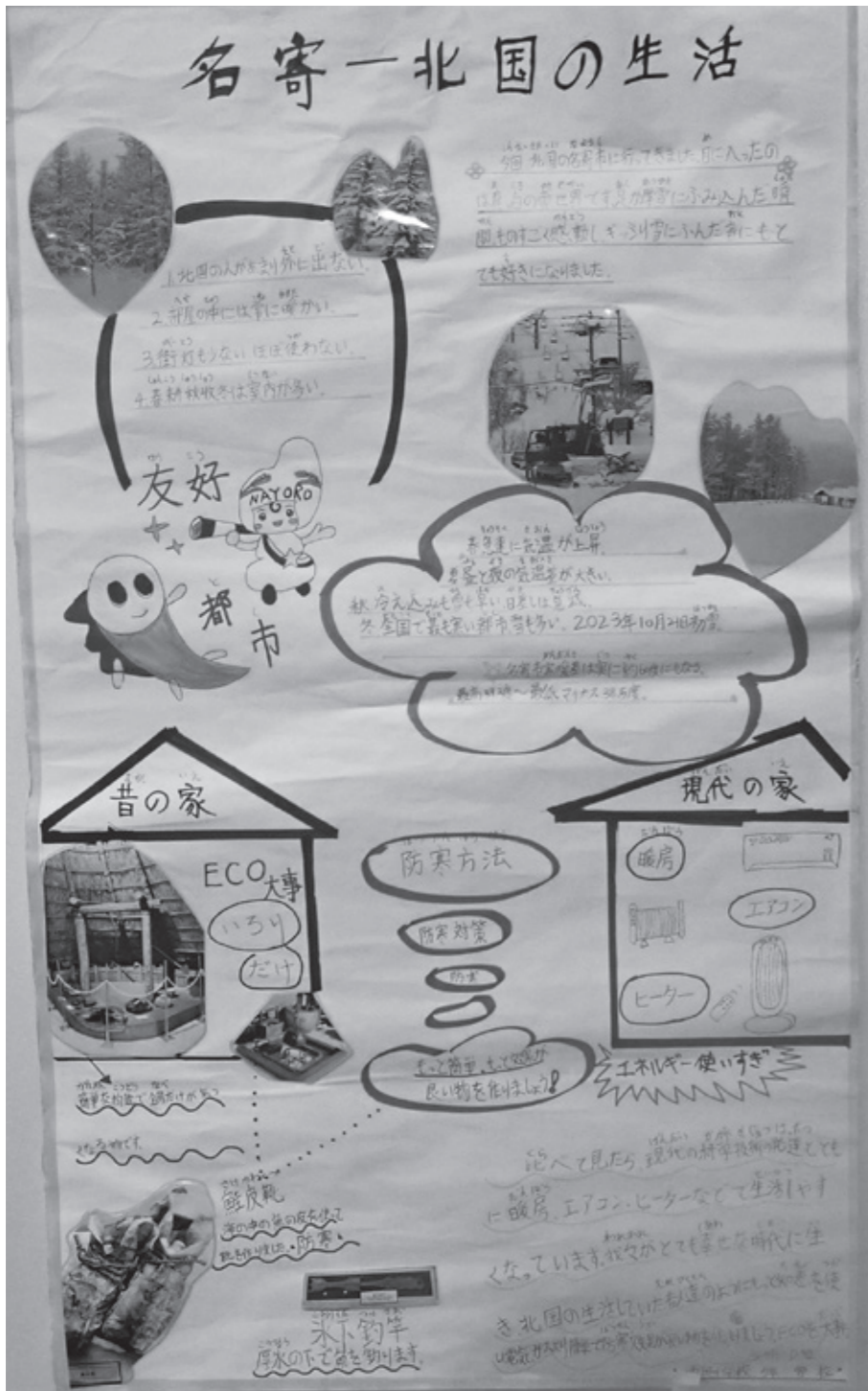
今回、北国の名寄市に行ってきました。中国南出身の自分が雪多い名寄市の人たちはどんな生活をしているのかを知りたいし、知恵を使った賢い生き方を学びたかったからです。

現地に行った時、まず目に入ったのは真っ白の雪世界でした。足が厚雪にふみ込んだ瞬間、ものすごく感動し、ギッシリ雪をふんだ音もとても好きになりました。名寄市体験交流会の機会森の休暇村に泊まり、暖かい部屋に入り、一日の疲れがすぐとれました。そして、スキー場で食事する時も、部屋中

が暖くて、とても気持ち良かったです。

北国博物館で見た昔の北国の人達の家の中には、いろいろあって鍋がかかっていました。あの時代、寒さの中で生きる方法の一つとして氷下釣竿を使って厚氷の下で魚を釣って生きていることが分かりました。熊、キツネ、へびなどの動物が狩れない時は海の中の魚の皮まで使って靴を作りました。博物館には防寒用具として、鮭皮靴がありました。昔の北国の人たちが防寒対策には多くの知恵を使ったことが分かりました。比べて見たら、現代の科学技術の発達とともに暖房、エアコン、ヒーターの時代に生き、北国で生活していた昔の人達のようにもっと知恵を使い、電気、ガスより簡単で防寒効果が良い物を作っていくことが大切だと思いました。

今回は名寄市の冬しか見てないですがまた機会があれば春、夏、秋の名寄も見てみたいと思っています。



学校名	桃井第三小学校	6年	氏名	和田 青潤
-----	---------	----	----	-------

### アイヌの生活

ぼくがアイヌの生活を調べようと思ったきっかけは、シャクシャインです。シャクシャインは江戸時代のアイヌのリーダーで、不正な取引をした松前藩と戦い、松前藩との仲直りの会場でだまされて殺されてしまいました。アイヌの衣食住は、本州とはだいぶことになっていて、服ではなくみのを着ていたり、中国との交易で手にいれた首かざりをつけていたり、えぞにしきという中国のにしきをおった服も着ていました。

食べ物については、本州とはあまり変わらず、団子を食べて、汁物には熊の肉がはいっていて、ほかの料理には鮭をいれたりしていました。

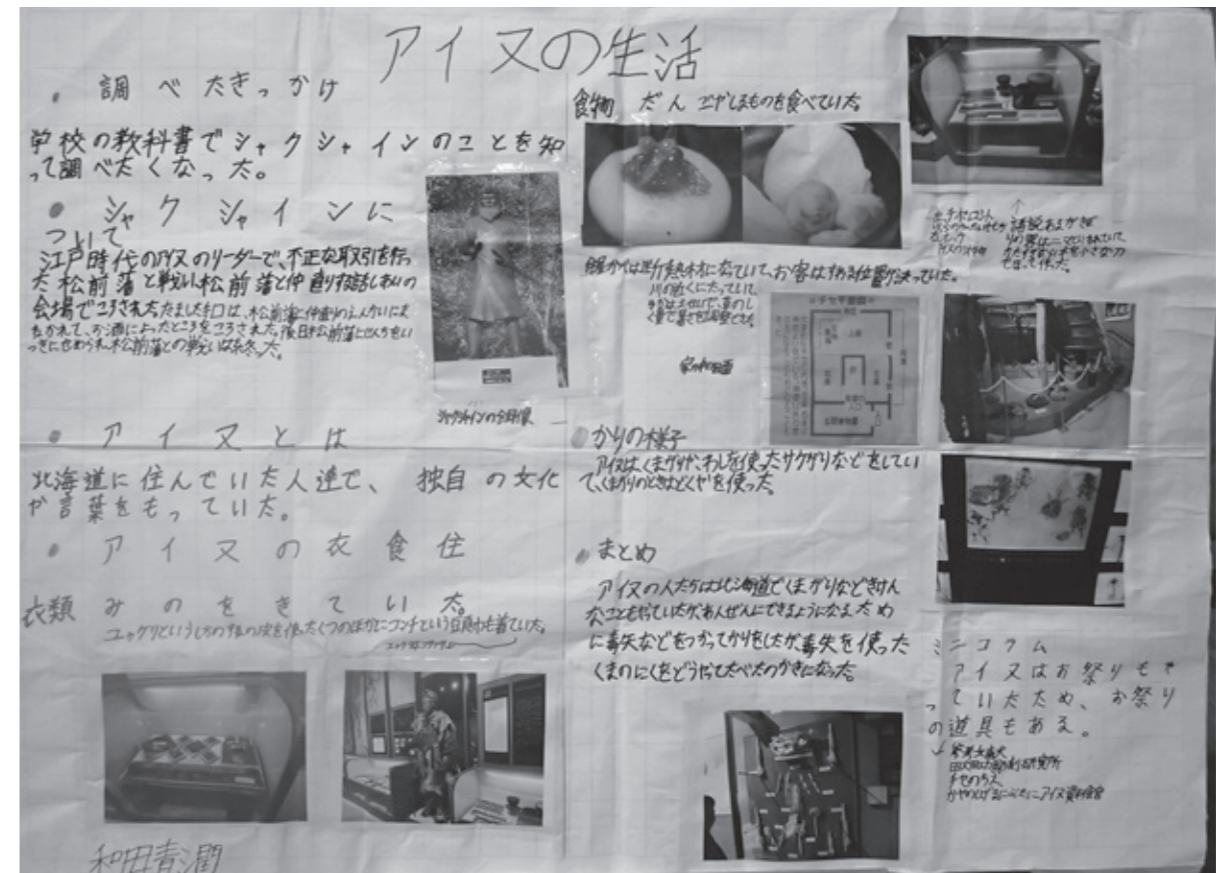
家については、かべが断熱材になっていて、家の中は暖かいです。ほかにはお客さんの性別ですわる位置がちがったりします。

かりについては、色々工夫があって、例えば雪にえものの足あとがのこるように狩りをするのは雪の積もる冬にしたり、熊が早く弱るように毒矢を使ったりしていました。ほかにも、鮭をとりやすくするために、たかにさけをとらせたりしました。

さらに、アイヌの人達の生活を調べていくと、気になることもでてきて、毒矢を使ったえものをどうやって食べたかがきになりました。

これらの他にも、寒い地域だからこその実験も心に残りました。

ぼくが名寄でやりたかったことは、外でみかんを凍らせることと、タオルを凍らせることです。みかんを凍らせるために、雪の中にうめて凍るまで待ちました。タオルは水にぬらしてふりまわしたけど、凍らなかったで雪にうめました。結果としてみかんとタオルは2日くらいかかって凍りました。北海道だからすぐ凍ると思っていたけれど、すぐに凍らなかったのが意外でした。



3班

3班

学校名	天沼小学校	6年	氏名	名取 龍希
-----	-------	----	----	-------

### 冬の動物の暮らし

ぼくは旭山動物園でいろいろな動物を見て、もっと知りたくなったのでこのテーマにしました。特に冬の北海道の寒さの中、野外で活発に動いている動物たちについて、なぜ寒さの中で活発に動いているのか知りたいと思いました。

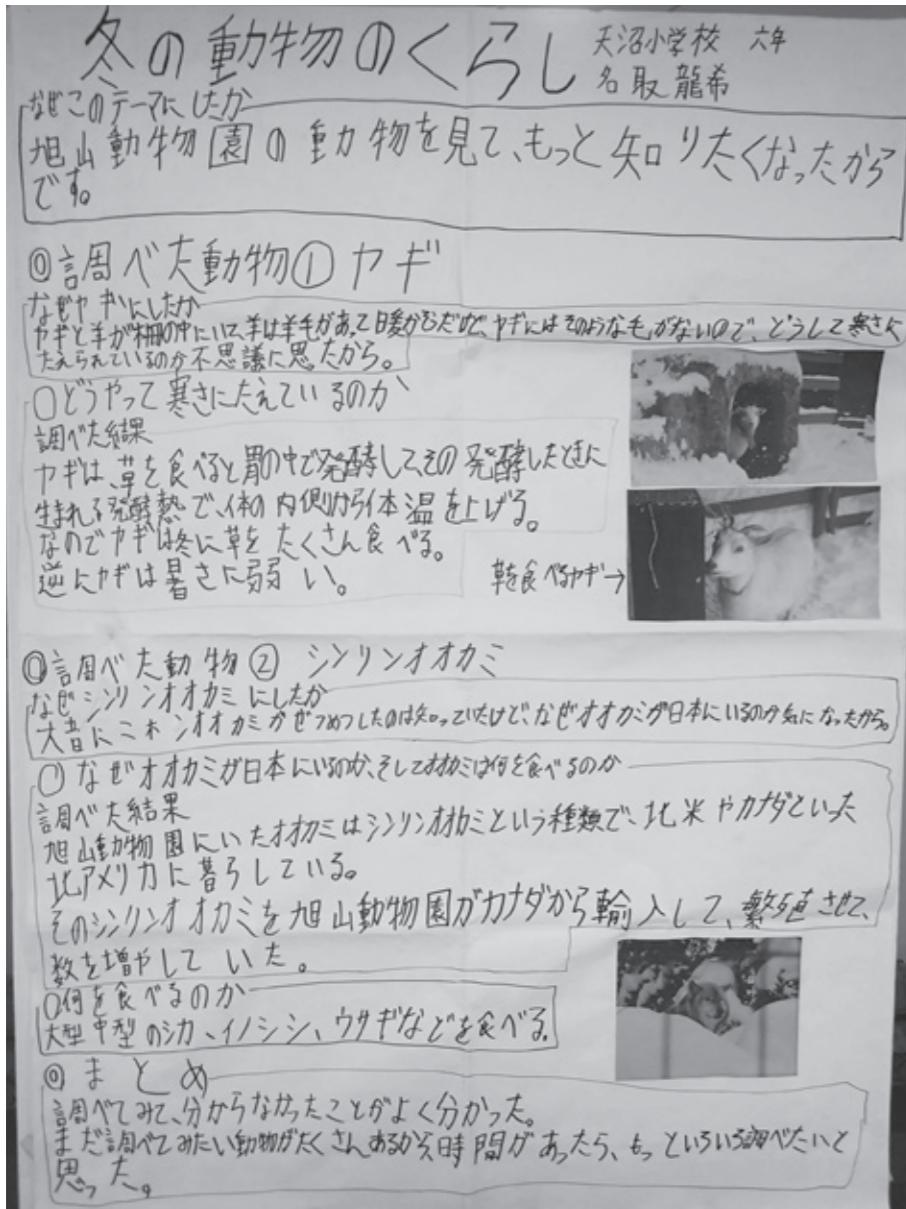
調べた動物の1つ目はヤギです。なぜヤギにしたかという、ヤギと羊が柵の中において、羊には羊毛があって暖かそうだけど、ヤギにはそのような毛がないから、どうして寒さにたえられているのか不思議に思ったからです。どうやって寒さにたえているのか調べた結果、ヤギは、草を食べると胃の中で発酵して、その発酵したときに生まれる発酵熱で、体の内側から体温を上げていました。なので、ヤギは冬、草をたくさん食べるそうです。そのため、逆にヤギは暑さに弱いことが分かりました。

もう1つ調べた動物がいます。それはオオカミです。どうしてオオカミにしたかという、大昔にニホンオオカミが絶滅したのは知っていたけど、なぜ日本にオオカミがいるのか不思議に思ったからで

す。そして、何を食べるのかも気になりました。調べた結果、旭山動物園にいたオオカミは、シンリンオオカミという種類で、北米に暮らしているそうです。そのシンリンオオカミを旭山動物園がカナダから輸入して、繁殖させて数を増やしているそうです。これで、オオカミがなぜいたかが分かりました。

次に何を食べるかです。シンリンオオカミの食性は肉食で、大型中型のシカ、イノシシ、ウサギなどを食べるそうです。ちなみに、北海道には昔、エゾオオカミという種類の野生のオオカミがいましたが、現在は絶滅しています。

調べてみて、分からなかったことがよく分かりました。まだ調べてみたい動物があるので、時間があつたらもっといろいろ調べたいと思いました。



学校名	和田小学校	6年	氏名	小垂 尚叶
-----	-------	----	----	-------

### 名寄市で学んできたこと

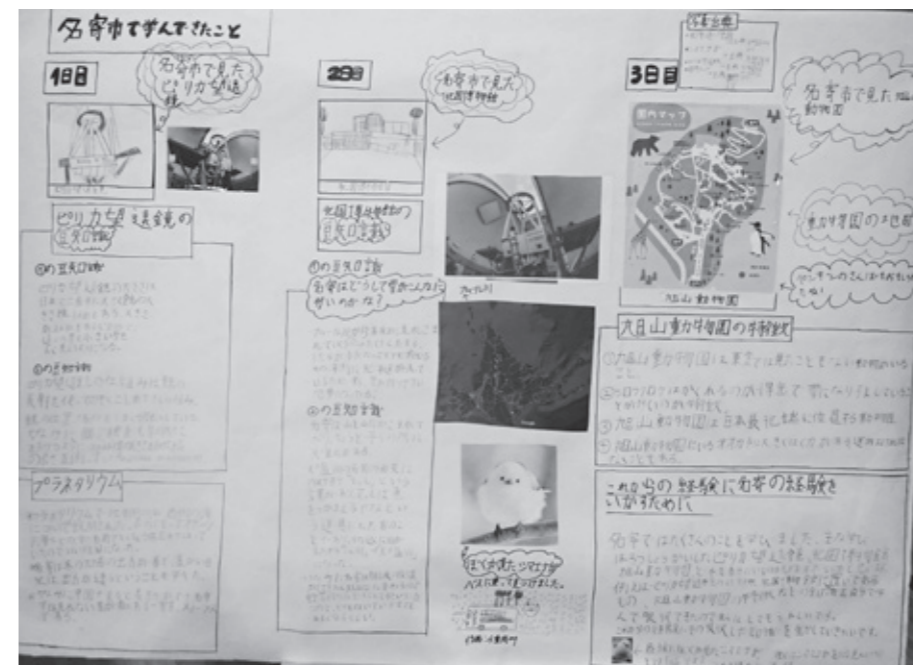
名寄市では色々な事を学びました。その学んだ事を発表したいと思います。1日目の天文台きたすばるです。1日目の時は屋根があつて星が見れませんでした。2日目では星を見ることができました。まず最初に50cmある目だまと同じ大きさの鏡を使う望遠鏡を見に行きました。鏡の反射を使つてのぞくことができる仕組みだそうです。鏡が大きければ大きいほど小さい星も遠い星もはっきり見えるという事も学びました。ちなみに眼底検査も大きさを分けて、目の良さを測っているそうです。そして、天文台きたすばるにあるピリカ望遠鏡の大きさは何と日本の公開している中で、2番目に大きいそうです。私はそのはく力について興奮してしまいました。こちらの鏡の大きさは1.6mと、とても高いです。鏡を50cm使つた望遠鏡の約3倍です。目で見るだけでなく、コンピューターを使つて外で見ることも可能です。

プラネタリウムでは、名寄の近くにある海などを星と関連付けて、説明してくれました。オホーツク海などの海の特徴、知識を忘れてしまつていたので、いい復習になったと思います。名寄は冬の太陽の出方が春や暖かい日とは出方が違う事も学ぶことができました。ちなみに中国で見ると長生きができ、名寄では見れない星が南にある一等星がスノーパスという星です。

2日目は、北国博物館に行きました。北国博物館では二手に分かれて、北海道の豆知識などをたくさん聞くことができました。名寄はどうして雪がこんなに多いかの豆知識を最初に聞きました。まずアムール川という外国の川から、真水が（何も入っていない）流れこまれてきて、たくさんたまりまゝ。そのたまった流水が氷になつてとても海が冷たくなりその海側に北海道が入っているため、寒く雪が降りやすい地帯になっています。名寄では山と山に囲まれておりちょうど平らの所に天塩川があります。天塩川の名前の由来はアイヌ語で「てっし」という言葉があり、てっしは魚をつかまえるやなという道具にた岩のことであり、その近くに川があつたから「てっし川」＝「天塩川」になりました。ちなみに名寄は朝と夜の気温が大はばに変わるので野菜作りにはとても向いているそうです。3日目は旭山動物園に行きました。旭山動物園の特徴は主に4つありました。1つ目は旭山動物園には東京では見たこともない動物がいること、2つ目はシロフクロウという動物はかくれるのが得意で雪になりすましていることが多いということ、3つ目は旭山動物園は日本最北端に位置する動物園、4つ目は旭山動物園にいるオオカミは大きくはく力があることです。

名寄ではたくさんのお話を学びました。主な学びは3つしようかいしたピリカ望遠鏡、北国博物館、旭山動物園などの知識を自分で学んで吸収できたので私はとてもうれしいです。これからの経験に名寄の経験、そして、経験でえた知識を生かしていきたいです。

ちなみにぼくはシマエナガをバスの中で見れたのでとてもうれしいです。



3班

4班

学校名	富士見丘小学校	6年	氏名	山口 琴音
-----	---------	----	----	-------

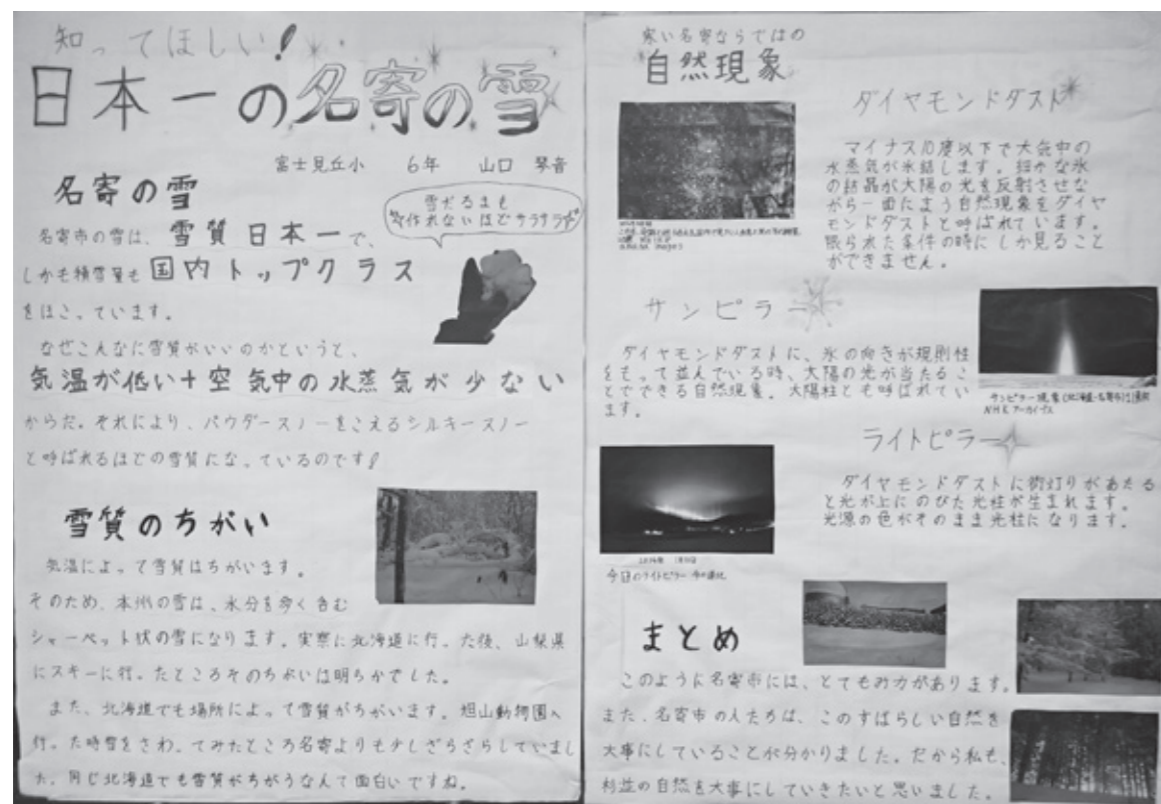
### 知ってほしい！日本一の名寄の雪

みなさんは、日本一の雪と聞かれると、何を想像しますか。私なら、雪の量が多いことを想像しますが、名寄の雪は、量も国内トップクラスですがちがいます。雪質で日本一なのです。実さいにさわってみました。今までさわってきた雪とのちがいは明らかで、雪だるまも作れないほどサラサラしていました。なぜこんなに雪質がいいのかというと、理由は二つあります。一つ目は、気温が低いことです。名寄市は、北海道の北部にあるぼんちのため、とても気温が低いのです。二つ目は、空気中の水蒸気が少ないことです。この二つの条件により、パウダースノーをこえるシルキースノーと呼ばれるほどの雪質になっているのです。

また、気温によって雪質はちがいます。だから本州の雪は水分を多く含むシャーベット状の雪になってしまいます。でも、おどろくべきところは、同じ北海道でも雪質がちがうということです。旭川の旭山動物園へ行ったとき雪をさわってみたところ名寄の雪よりも少しざらざらしていることが分かりました。北海道でも、場所によって少しずつ雪質がちがうのは、面白いですね。

最後に寒い名寄ならではの自然現象をしょうかいします。マイナス10度以下で大気中の水蒸気がこおり、細かな結晶が太陽の光を反射させながら一面にまう現象をダイヤモンドダストといいます。限られた条件の時にしか見ることができません。またサンピラーやライトピラーも見ることができます。サンピラーは、ダイヤモンドダストに氷の向きが規則性をもって並んでいるときにできます。ライトピラーは、ダイヤモンドダストに街の灯りがあたることで光りの柱が生まれる現象です。どれもとても美しいので見てみたいですね。

このように名寄市には、とてもみ力があります。東京とは全くちがい、見るもの全てにあっとうされました。また、名寄市の人たちは、このゆたかな自然をととても大事にし、ほこりをもっていることが伝わってきました。だから、私も自分の身のまわりの自然のよさを見つけ、大事にしていきたいと思いました。



学校名	八成小学校	5年	氏名	大川 理央
-----	-------	----	----	-------

### 極寒の名寄でやってみた

私は名寄で寒さならではの実験を4つしました。理由は名寄がどれだけ寒いかを身近なものを通じて調べてみたかったからです。

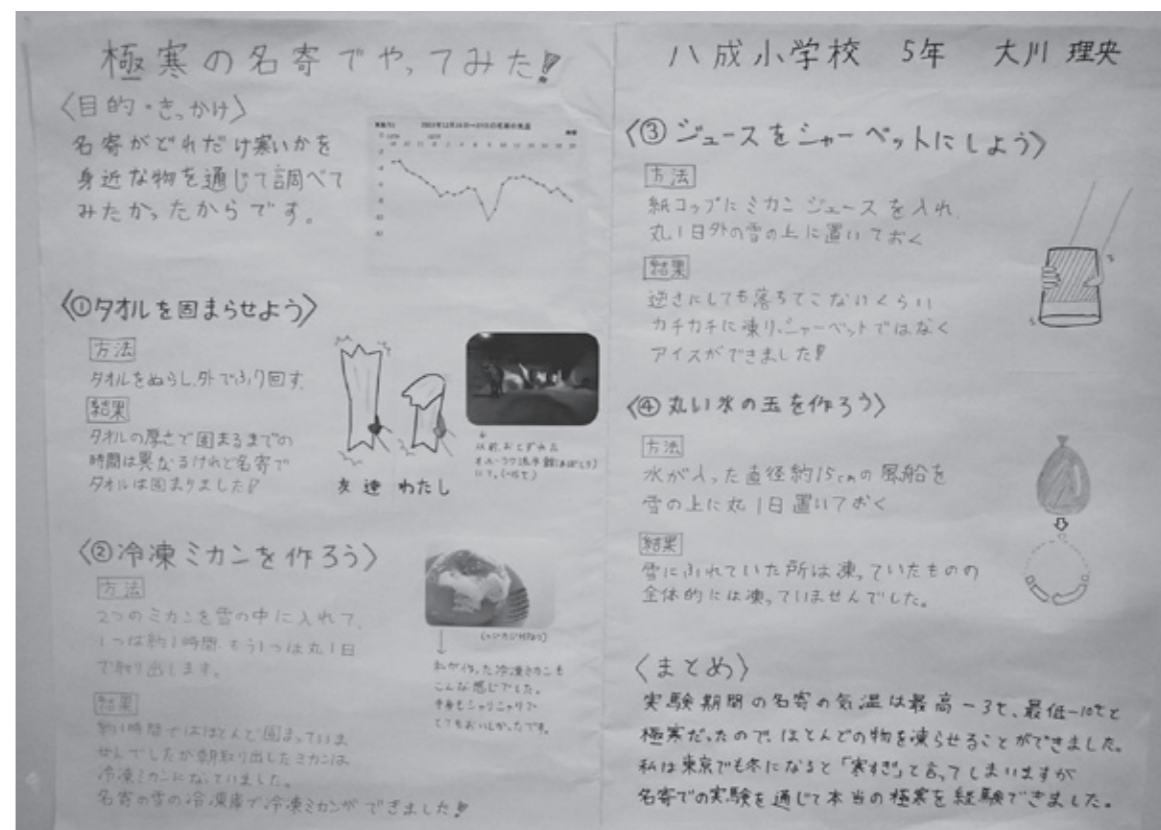
1つ目はタオルを固まらせる実験です。この時の気温はマイナス4度でした。タオルを水で濡らし、外で振り回すと5分くらいで固まりました。友達も同じ実験をしていましたが、1分くらいですぐに固まっていました。違いを調べてみると、友達のタオルは薄くて私のタオルは厚いことが分かりました。タオルの厚さで固まるまでの時間は異なるけれど、名寄でタオルは固まりました！

2つ目は冷凍ミカンを作る実験です。2つのミカンを雪の中に入れて、1つは約1時間で取り出し、もう1つは朝まで置きました。約1時間ではほとんど固まっていませんでしたが、朝取り出したミカンは皮のまわりに氷が張り付いて中身もシャリシャリの冷凍ミカンになっていました。名寄の雪の冷凍庫で冷凍ミカンができました！

3つ目はミカンジュースをシャーベットにする実験です。紙コップにミカンジュースを入れ、丸一日、外の雪の上に置きました。その結果、逆さにしても落ちてこないくらいカチカチに凍り、シャーベットではなくアイスができました。後で調べてみるとシャーベットは、単に冷やすだけでなく混ぜたり振ったりしながら冷やすことで上手くできるようです。でもアイスもおいしかったです。

4つ目は丸い氷の玉を作る実験です。水が入った直径約15センチの風船を雪の上に丸1日置いておきました。しかし、雪に触れているところは凍っていたものの、全体的には凍っていませんでした。少し水風船を大きくしすぎたようです。

実験期間の名寄の気温は最高マイナス3度、最低マイナス10度と極寒だったので、ほとんどの物を凍らせることができました。私は東京でも冬になるといつも「寒すぎ」と言ってしまうのですが、名寄での実験を通じて本当の極寒を経験できてよかったです。



4班

4班

学校名	杉並第六小学校	5年	氏名	南保 春紀
-----	---------	----	----	-------

### 名寄で出会った野鳥

僕たちは名寄でいろいろな場所にいきました。きたすばる、北国博物館、ピヤシリスキー場などです。きたすばるでは、公開天文台としては日本で2番目に大きな「ピリカ望遠鏡」で星を観察しました。北国博物館では、アイヌの人々の寒い土地で暮らす工夫や、名寄の地形について学びました。ピヤシリスキー場では、スノーモービルに乗りました。曲がるたびにすごく傾いて落ちそうになり少し怖かったですが、猛スピードで雪の上を走るのはとても気持ちが良かったです。

このように名寄ではたくさんの体験をしましたが、僕は鳥が大好きなので名寄で出会えた野鳥についてまとめました。

北国博物館には餌台が設置されていて、手を伸ばせばとどきそうな距離で野鳥を見ることができました。餌台には次のような鳥たちが来ていました。

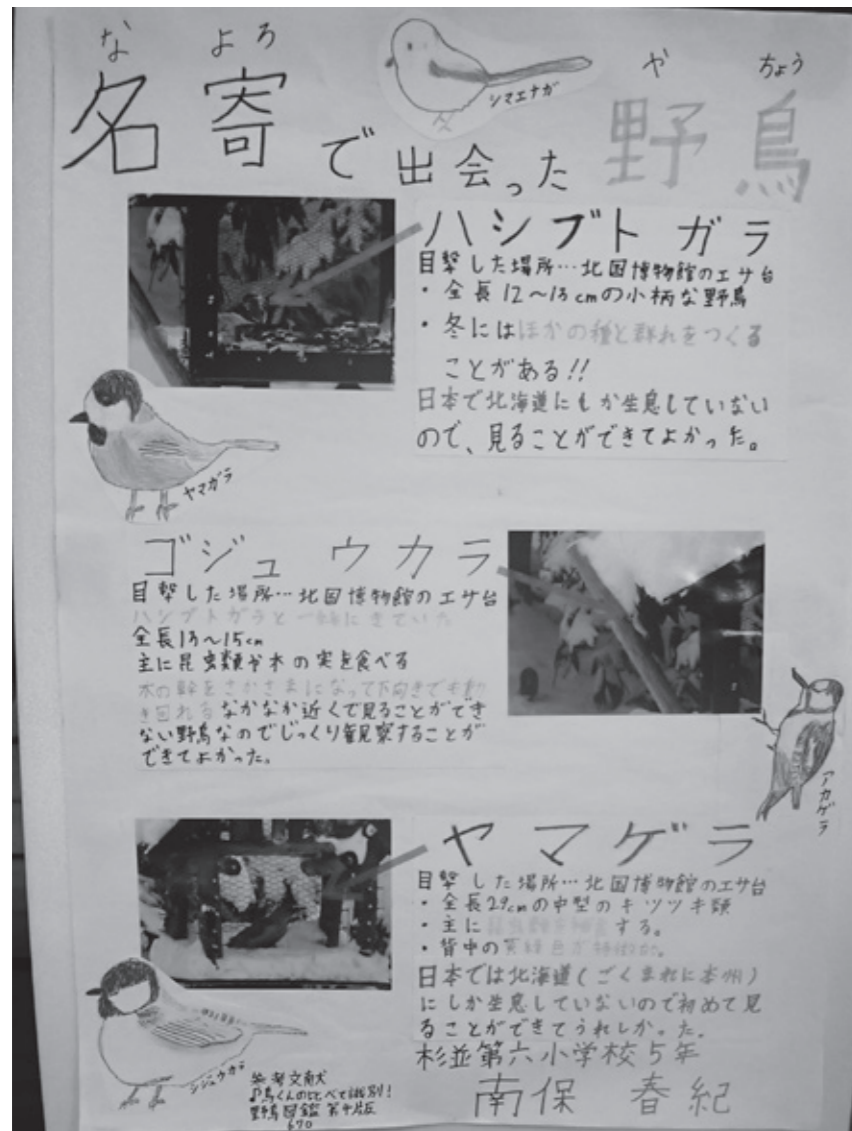
1種めは、ハシブトガラです。ハシブトガラは森林に生息している小鳥で、冬には他の種と群れを作って行動しています。北海道でしか見られないので見ることでよかったです。

2種めは、ゴジュウカラです。ハシブトガラと群れを作り一緒に行動していました。この鳥は木の幹をさかさまになって下向きでも動き回ることができます。とてもすばしっこくなかなか近くで見ることができない鳥ですが、今回はじっくり観察できてよかったです。

3種めは、ヤマゲラです。ヤマゲラは背中の黄緑色が特徴的なキツツキ類で全長は30cm近くあり迫力があります。北海道にしか生息していません（ごくまれに本州でも観察された記録があります）。ヤマゲラを観察できたのは生まれて初めてだったので、特にうれしかったです。

他にも3日間で、シマエナガ、アカゲラ、ヤマガラなどたくさんの野鳥に出会えました。

名寄に行く前は野鳥に出会えるか心配でしたが、北海道でしか見られない鳥を観察することができ、中でもヤマゲラは初めてだったので最高の体験になりました。今回はこのような機会をくださりありがとうございました。



学校名	高井戸第三小学校	5年	氏名	島崎 葵香
-----	----------	----	----	-------

### 名寄の美味しい冬の食

私は北海道が大好きです。雪の絶景が広がる名寄市での体験は、東京とは違う、新たな気づきや好奇心をかき立ててくれました。

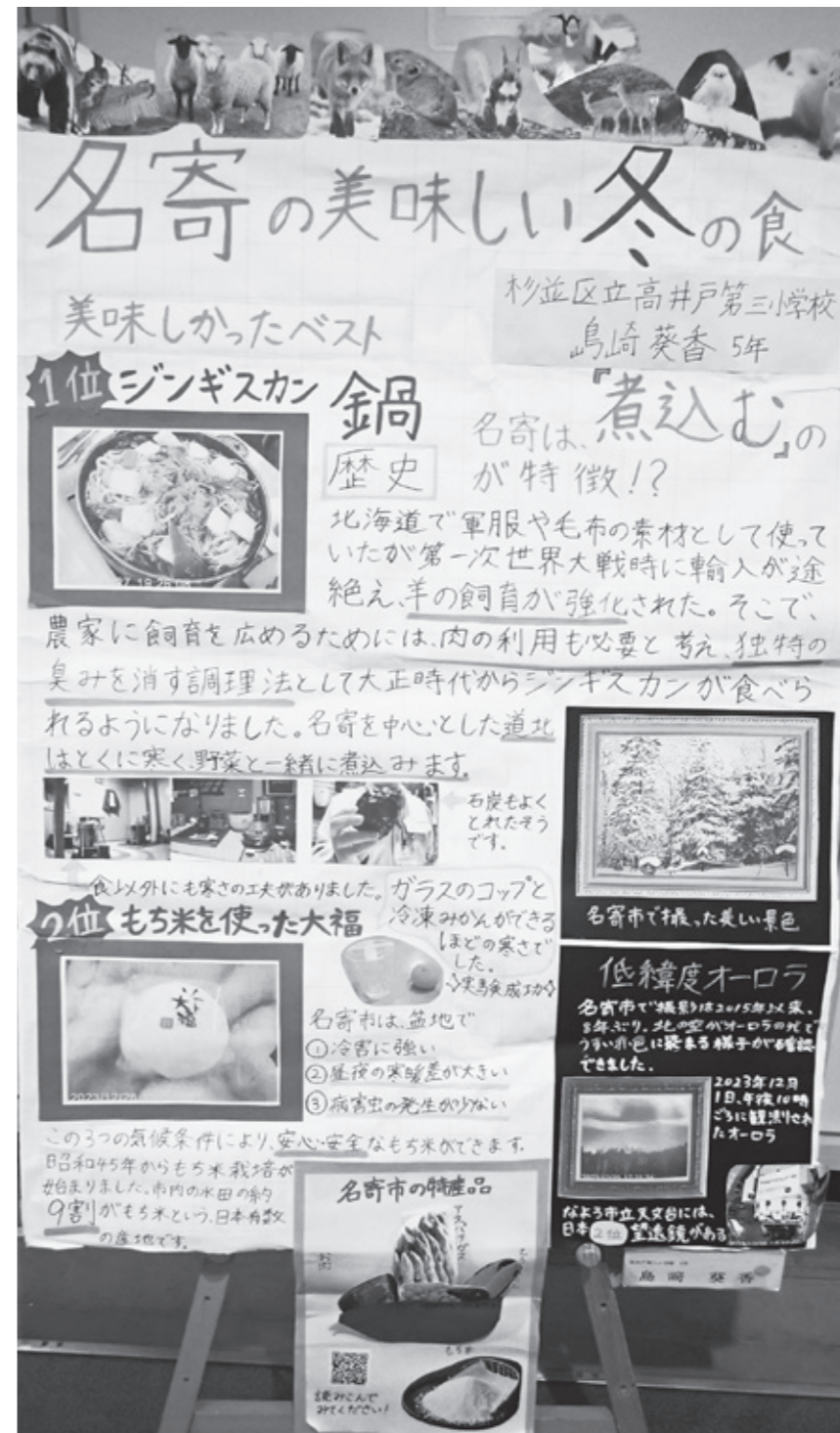
白く輝く景色はまるで絵画のようです。今までに体験したことのない凍えるような寒さでした。そこで食べたジンギスカンは、私の中のベスト一位です。美味しくて、体も温まりました。北海道で羊肉が食べられたのは、大正時代だそうです。軍服や毛布で羊毛を使っていました。ですが、第一次世界大戦

で輸入が途絶えたのをきっかけに国内で羊の飼育がされるようになりました。農家に飼育を広めるためにも、羊の独特の臭みを消す研究がされ、名寄市では、寒さをしのぐ「煮込む」郷土料理です。食べ物だけでなく、昔から人々は、住まいや衣類でも寒さの工夫が感じられます。

続いて美味しかったのは、もち米を使用した大福です。市内の水田の約九割がもち米です。盆地特有の気候条件で昼と夜の寒暖差が大きいことで、病害虫に強く安全で美味しいもち米ができます。

気候の特徴と言えば、北海道でオーロラが見れることがあります。私たちがほう問したなよろ市天文台では、12月1日に、オーロラの光でうすい赤色に染まる「低緯度オーロラ」も観測されました。いつか自分の目で見てみたいです。

友達との雪だるま作りやスノーモービルで楽しんだあとの美味しい食事、そして、名寄市の地を存分に活かした人々の魅力に触れ、本当に貴重な経験ができました。ありがとうございました。



学校名	荻窪小学校	5年	氏名	深田 悠生
-----	-------	----	----	-------

### 生まれて初めての名寄

生まれて初めて行った名寄は、楽しいことばかりだったのですが、あえて困ったことから書きます。それは、あまりの寒さで僕のデジカメが使えなくなってしまったことです。僕は、二日目の北国博物館でたくさん写真を撮って資料を集めようと気合を入れていたのですが、見学が始まって間もなく、デジカメのシャッターを押しても画面が暗くなったまま動かなくなってしまいました。北国博物館での写真がほとんど撮れなかったことは最も悔やまれることです。しかし、その午後に引率の先生が自分の携帯をおなかで温めながら使っていたのを見て、なるほどと思い、僕も三日目の旭山動物園では、デジカメをカイロで温めながら、たくさん写真を撮ることができました。

僕が名寄で最も楽しかったことは、二日目午後のピヤシリ山とピヤシリスキー場でのスノーモービル体験とソリです。スノーモービル体験は、倒れそうになるほどスノーモービルを傾けて走行したり、衝撃を体感しながらでこぼこ道を果敢に進んだり、とてもスリルがあり、面白かったです。ソリは、高いところから滑れば滑るほど、速度が出て、運転が難しくなり、何回も転びましたが、すごく楽しかったです。名寄のふかふかの雪は、転んでも全く痛くなかったです。

僕は、北国博物館の〈カムイの森〉の展示に興味をもち、アイヌ民族についてさらに知りたくなり、図書館で本を借りて調べました。そこで、今回の名寄の学習成果発表では、アイヌの地名に残る言葉や信こうについてまとめることにしました。

ぼくは名寄市で、郷土料理や、その土地の気候などの特ちょう、その土地にいる人たちの歴史、そして、見たことのない星や大きい望遠鏡について学びました。

父がふるさと納税で名寄市の煮込みジンギスカンを選んでくれました。今はそれが届くのがとても楽しみです。

学校名	富士見丘小学校	5年	氏名	加來 杏奈
-----	---------	----	----	-------

### おいしい名寄

私が、名寄自然体験交流で調べ、体験した事は3点あります。

まず1点目は、名寄のもち米についてです。北海道は日本のもち米生産量1位で、名寄市には「なよろ」というゆるキャラもいます。名寄市がなぜもち米作りがさかんなのかというと、盆地特有の気候条件である昼夜の寒暖差があることにより、病害虫の発生が少ないことや、もち米じたいが氷害に強いからです。名寄市のもち米を使った食べ物で代表的な物は、「ソフト大福」です。白あんやメロンやよもぎなど様々な味があり、わたしはハスカップという味が好きです。

次に2点目は、煮込みジンギスカンについてです。煮込みジンギスカンは、名寄市を中心に食されているなべ料理で羊肉やうどんなどを肉のつけダレと一緒に煮込む食べ物です。一般的に知られているジンギスカンなべを使ったジンギスカンとのちがいは、一般的なジンギスカンは羊肉を焼くのに対し、煮込みジンギスカンは文字通り漬け込まれた羊肉をタレごと煮込むことです。うどんややさいに味がしみていて、おいしかったです。

3点目は、名寄市と杉並区の気温についてです。杉並区の夏と冬の平均気温は26度と4度で、名寄市の夏と冬の平均気温は19度と-9度です。名寄市は杉並区より全体的に低かったです。わたしが名寄市で行った実験は、2つあります。1つはタオルを凍らせる実験です。手ぬぐいとタオルをふり回して30秒ごとに様子を見てみると、手ぬぐいは1分30秒で、タオルは30秒で凍りました。手ぬぐいの方がうすいので手ぬぐいの方が早く凍ると思っていたのですが、タオルが先に凍ってびっくりしました。2つ目は、冷凍みかんを作ることです。雪の中で2日ほうちしました。冷凍庫より固くなりすぎず中はほどよくシャリシャリしておいしかったです。

わたしが初めて名寄に行って特に心に残ったことは、スノーモービルです。とても速くて楽しくて、きちょうな体験でした。また北海道に行ってみたいと思いました。



学校名	西田小学校	5年	氏名	北御門 咲月
-----	-------	----	----	--------

### 雪の名寄

私は、初めて冬の北海道名寄市に行きました。雪の多さや東京との雪質のちがいにとてもおどろきました。ひらひらとまう雪、一面の白い世界が、どのようなちがいによってできるのかについて北国博物館で話を伺うことができました。

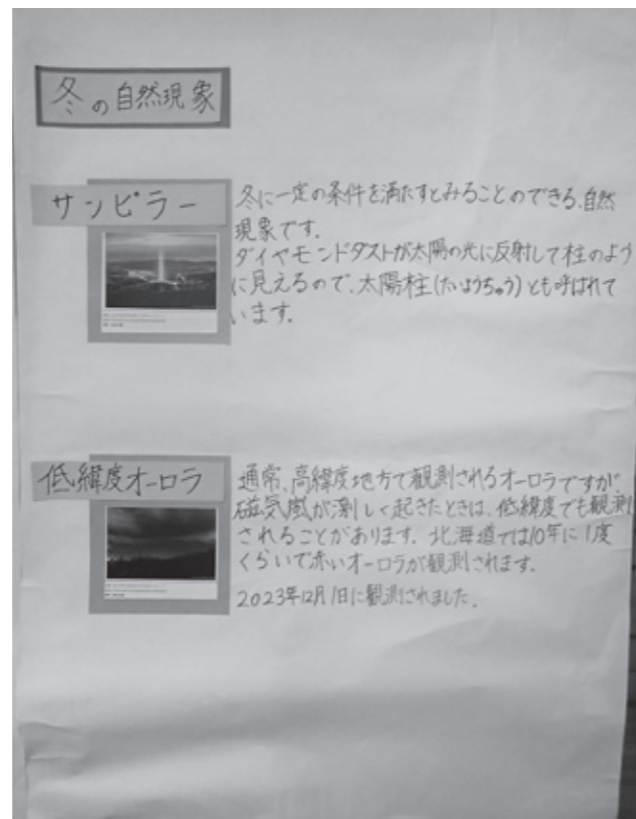
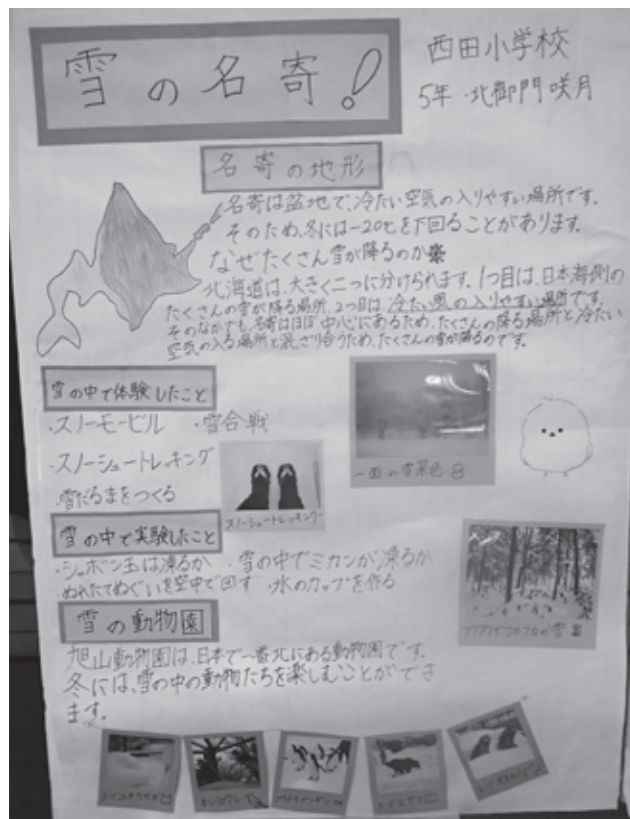
この美しい雪は、名寄の位置と地形が関わっていました。北海道は大きく2つに分けられます。1つ目は、『日本海側は雪がたくさん降る場所』、2つ目は『冷たい風が入る場所』です。名寄は、どこに入るかというところ、2つ目の『冷たい風が入る場所』に入ります。ですが、名寄は北海道のほぼ中心にあるため、冷たい風により気温もとても下がるとともにたくさんの雪が降る場所でもあります。

また、名寄の雪は、サラサラしており、雪だるまの丸を作るのも大変なくらいでした。東京の雪は水分が多く、丸めるとずっしりと重く当たると痛いときえ感します。名寄の雪は、粉状で一粒一粒の雪の結晶がはっきり見えました。手につかんだ雪を空気中にまくとサラサラとまいます。まさに、アナと雪の女王のような手から雪がまき散るような演出ができました。

私は、雪の中で色々な実験をしました。寒い雪の中、シャボン玉をふいてみました。シャボン玉は雪の上で固まると薄いガラスが割れるようにパリパリとはじけました。

また、ぬらしたてのてぬぐいを30秒ほどぐるぐる回すと、自立するくらいの固さに固まりました。

この冷凍庫のような寒さをもっとも感じたのは、スノーモービルでした。雪の上を走るバイクのものすごいスピードでスキー場を走ると、外気にさらされた部分は痛いときえ感するほど冷えてしまいました。片手には、スキー用の手袋をし、もう一方は普通の手袋をして乗っていたのですが、左右で全くちがい、普通の手袋の無意味さを凍り付きそうな指先に感じました。私が名寄で体験したことは、言葉では伝えきれないのでぜひ行ってほしいし、私自身も、別の季節に行きたいと思いました。



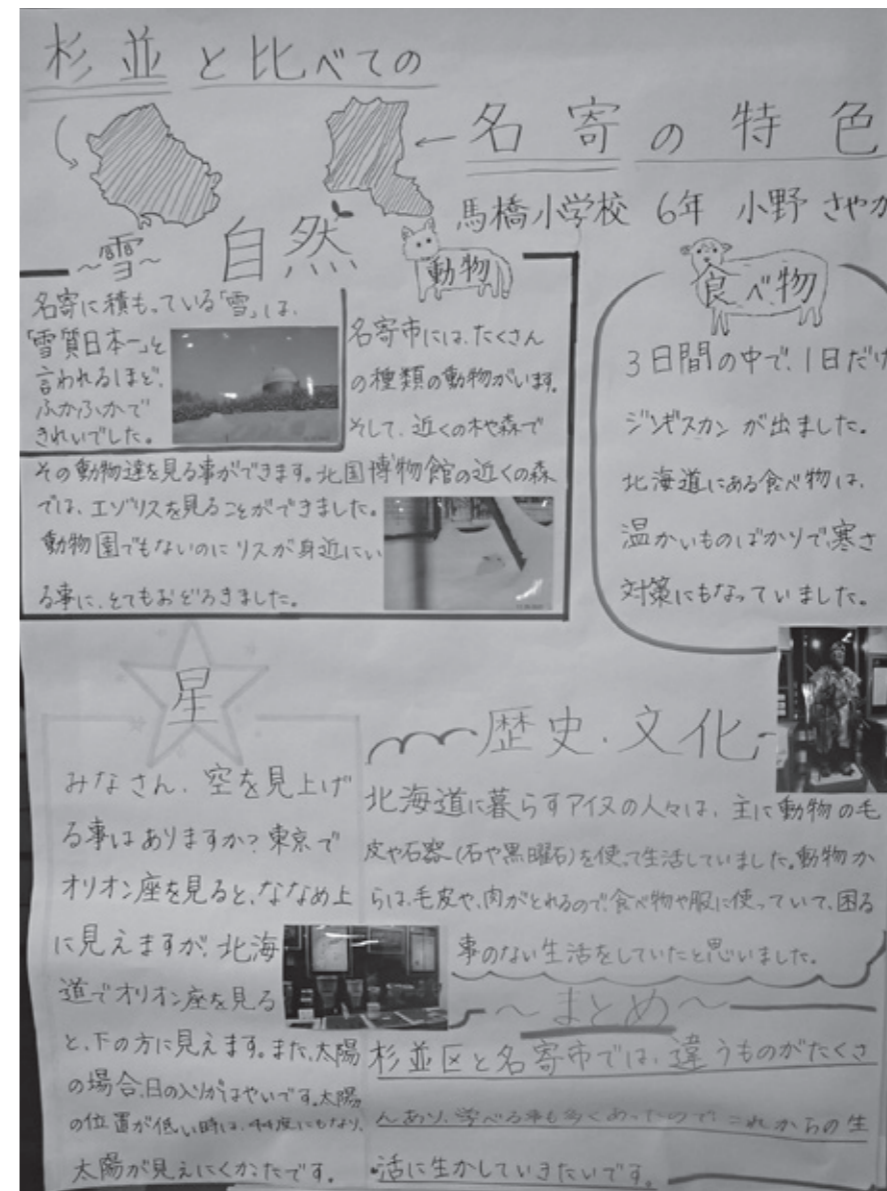
学校名	馬橋小学校	6年	氏名	小野 さやか
-----	-------	----	----	--------

### 東京と比べての名寄の特色

私は、「名寄の特色について調べる」という学習課題でこの小学生名寄自然体験交流に参加しました。そこで、学んだことが4つあります。まず、一番心に残ったものは「自然」ということについてです。名寄市には、たくさんの自然がありました。例えば、「雪」です。ふわふわで質の良い雪がたくさん積もっており雪質日本一といわれるほどでした。その他にも、「動物」や「植物」です。名寄には、たくさんの種類の動物がいて、とてもおどろきました。近くの森の木にリスがいたり、見たこともない鳥がいたり東京では見られないものばかりでした。次に、「歴史・文化」についてです。歴史といえば、北海道ではアイヌがとて有名ですね。アイヌの人々は昔から動物の毛皮や肉、石器などを主に使っていたそうです。動物の毛皮（シカ、タヌキ、キツネなど）は、雪が降っても寒くないように、服や上着にしたりくつに使われていました。石器は、とがった石や黒曜石でできていて、肉や魚をさばいたり、槍にして動物を狩ったりするのに使われていて、とても便利な道具だったようです。そして「星」についてです。きたすばる天文台というところのピリカ望遠鏡でたくさんの星を見ることができました。土星や

月などが拡大されて見えて、星がどれくらい遠くにあるのか実感しました。肉眼では、すごく小さな星にしか見えなかったのに望遠鏡で見ると土星だったり、月のクレーターが見えたりして、とてもきれいでした。最後に、「食べ物」についてです。3日間の生活の中で1日だけジンギスカンが出ました。北海道にある食べ物で、温かいものが好きで寒さ対策にもなっていました。

私はこの3日間で「自然」「歴史・文化」「星」「食べ物」の4つの事を学びました。どれも、東京では体験できないものばかりです。そして、名寄の特色についても学ぶことができ、とても有意義な3日間を過ごすことができました。



学校名	高井戸東小学校	6年	氏名	森賀 颯大
-----	---------	----	----	-------

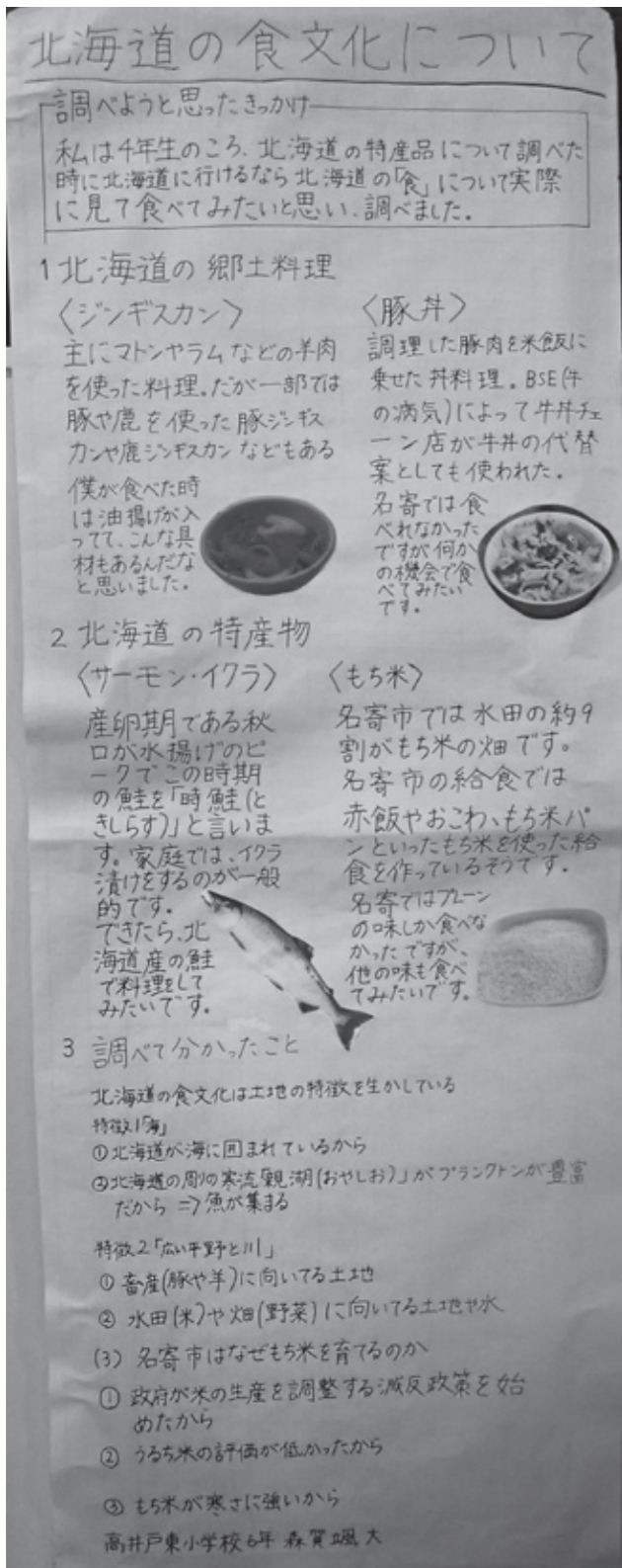
## ダイヤモンドダストのように輝いた笑顔

四宮小学校 校長 浮ヶ谷 優美

### 北海道の食文化について

僕が名寄で学んだことは2つあります。

1つ目は、北海道の郷土料理についてです。北海道の有名な郷土料理のジンギスカンは、主に羊の肉を使っていますが豚や鹿の肉を使った豚ジンギスカンや鹿ジンギスカンなどがあります。そしてジンギスカンの発祥は戦時中、羊毛の輸入が困難となり国策として綿羊飼育が推奨され、このころからジンギスカンは食べられたと言われています。僕が食べた油揚げが入っていてその他にも色々な具材が入ってとても美味しかったです。他の郷土料理だと、豚丼が有名で豚丼はBSE(牛の病気)によって牛が少なくなった時に牛丼チェーン店が牛丼の代わりに使われました。名寄では食べられなかったですが、いつか食べて見たいです。



2つ目は北海道の特産品についてです。名寄の有名な特産品として挙げられるのがもち米です。名寄市の水田の約9割がもち米です。名寄市の給食では赤飯やおこわ、もち米パンといったもち米を使った給食を作っています。僕はソフト大福のプレーンしか食べなかったのですが、また別の味も食べて見たいです。他の有力な特産品では、サーモン・イクラなどがあります。サーモンは秋口が水揚げのピークで、その時の鮭を「時鮭」といいます。北海道の家庭ではイクラを漬けるのが一般的です。できたら北海道の鮭を使って料理してみたいです。

北海道の食文化は土地の特色を生かしていると思います。まず特徴1つ目は海です。理由は北海道が海全体に囲まれているからというのと、北海道の周りに流れる寒流(親潮)がプランクトン豊富だから魚が集まるんだと思います。特徴2つ目は広い平野と川です。理由は畜産に向いている土地と水田や畑に向いている土地や水と言うのが特色を生かしていると思います。

名寄市がなぜもち米を育てるのかについて調べました。1つ目は政府が米の生産を調整する減反政策を始めたから。2つ目はうるち米の評価が低かったから。3つ目はもち米が寒さに強いからだだと思います。

「名寄ってどこにあるの?」多くの人から聞かれます。「名寄」は、「旭川」から北海道の北端「稚内」に向かって車で2時間程の所にある知る人ぞ知る地です。良質なもち米の産地としても有名だそうです。雪合戦の雪玉ができないほどのパウダースノーで雪質が抜群であること、濡らしたタオルを振り回すと、すぐに凍ってしまうほど寒さが厳しいことなどの話を聞いて、豊かな自然の中での極寒体験が期待できる本事業への参加をとっても楽しみにしていました。

この名寄自然体験交流事業のねらいを端的に示すと、**探究**・**交流**・**自然**・**集団生活**の4つです。参加者一同が初めて会する結団式(10月末)では、参加者(児童25名、引率者13名)が本事業の目的を共通理解するところからスタートしました。

**探究** 参加児童は、名寄について学びたいという意欲をもった子ばかりです。「人・自然・土地」など興味をもった課題について、現地で体験したことを加えて深めたことを発表する一連の探究活動も本事業の目玉の一つです。子どもたちは、持参したみかんを雪の中に入れて冷凍ミカンづくりをしたり、濡れたタオルが本当に凍るか試したり、様々な実験が繰り返されていました。雪の上を転げ回るなど、全身で雪を感じようとする子どもたちの笑顔が輝いていました。

**交流** 東京都と異なる雪国で暮らす名寄の子どもたちの生活について、直接会って話ができることも本事業の魅力の一つです。今年の名寄市内の複数の小学校から8名が杉並区児童との交流会に参加してくれました。車座になって話す中で、意外に杉並の子と変わらない生活を送っていることが分かりました。名寄の子も交じってグループに分かれ、スノーシューを履いて雪原で宝を探した後、温かい豚汁で昼食を共にしたことがすてきな思い出になりました。

**自然** 天体観測に訪れた「きたすばる天文台」は、名寄市が誇る星空や宇宙を身近に感じられる施設です。なかでも直径1.6mの鏡をもつ「ピリカ望遠鏡」は、肉眼ではとらえられない星の美しさを映してくれます。職員の方々の天体観測に寄せる熱意ある説明を、子どもたちは寒さにも負けずにしっかりと聞いていた姿が印象的でした。

**集団生活** 自校の移動教室とは異なり、区内各校から集まった出会ったばかりの人と東京から遠く離れた場所に出かけるのは、勇気のいることです。自分のことは自分で行き、生活のしおりをよく読んで見通しをもって行動しなければなりません。心配をよそに、多くの子が自ら新しい人間関係を築き、周りの子と協力しながら、しっかり生活することができたことに感心しました。

子どもたちが本事業を通してこのような貴重な体験ができるのは、次世代育成基金のおかげです。最後になりましたが、ご賛同ご協力いただきました皆様、名寄市教育委員会、本事業を所管する生涯学習推進課、全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

# 保護者の感想

天気が良くなかったのですが、2日目の晩に瞬間的に雲が晴れてきたすばるで天体観測ができたと思いました。厳しい寒さはもちろんのこと、こういった瞬間を体験できたのも名寄ならではの思い出です。元々寒さが苦手な子ですが、一日中氷点下の名寄の冬の体験、交流を通してひとまわり成長したと感じました。

写真を見ながら1枚1枚たっぷり説明してくれたので朝起きてから夜寝るまでの1日がいかに初めての経験の連続で充実した時間を過ごせたかがたくさん話を聞いてよく分かりました。様々な学習をしながら、交流する事もできて、子供達にとって宝の様な経験をさせて頂き、関わってくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

体験として印象的だったのは2日目のスノーシュートレッキング体験とスノーモービル体験だった様です。また学校以外での友達との交流の機会を得た事も本人の成長につながったと思います。

普段体験できない雪国での生活を同年代の子もたちとすることが出来、とても成長したと思います。すべてが楽しく目を輝かせて話してくれました。

## 令和5年度名寄市・杉並区交流事業

事業名	概要	時期
北海道名寄市の「夏」写真展	名寄市の夏の風景写真を杉並区役所にて展示しました。	令和5年 5月29日～6月2日
料理で学ぶ交流自治体「名寄市」	杉並区民を対象に阿佐谷地域区民センターで名寄市の紹介や「なよろ煮込みジンギスカン」を堪能してもらいイベントを実施しました。	令和5年 5月30日
アスパラまつり	杉並区役所でアスパラガスや大福等の特産品を販売しました。	令和5年 5月31日～6月2日
白樺まつり	東京高円寺阿波おどり親善訪問おどり団（31名）と区代表団（5名）が名寄市を訪問し、まつり会場で踊りを披露しました。	令和5年 6月17日～18日
杉並区・名寄市子ども交流会	夏休みに、両自治体の小学4年生から6年生が、相互に訪問し交流しました。	名寄編 令和5年 7月28日～31日 杉並編 令和5年 8月5日～8日
東京高円寺阿波おどり	東京高円寺阿波おどり本大会に名寄市のおどり団「風舞連」が参加しました。	令和5年 8月26日
北海道名寄市一足早い秋の収穫祭	杉並区役所でとうもろこしや大福等の特産品を販売しました。	令和5年 8月31日～9月1日
すぎなみフェスタ	交流自治体合同物産展に出展し、なよろ煮込みジンギスカンや大福等の販売をしました。また、会場内では名寄市の市立天文台きたすばるの移動式天文台車が出てきて、観望会も行われました。	令和5年 11月4日～5日
冬のなよろ写真展	名寄市にて作成している冬カレンダーの掲載作品および応募作品の一部を杉並区役所にて展示しました。	令和5年 12月11日～15日
なよろ雪質日本一フェスティバル・ふうれん冬まつり	杉並区代表団（6名）が名寄市を訪問し、雪像コンクールにて区長賞・議長賞の表彰をしました。	令和6年 2月10日～11日
日本語スピーチ大会でのもちつき披露	杉並区で行われた日本語スピーチ大会に名寄市の「もち大使」が参加し、日本の文化の紹介として、もちつきを披露しました。	令和6年 3月9日
名寄市推し冬写真展	名寄市で実施された「インスタグラムフォトコンテスト#推し冬」の応募作品を杉並区役所にて展示しました。	令和6年 3月18日～29日

### 令和5年度小学生名寄自然体験交流事業報告書

令和6年3月発行  
 編集・発行 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課  
 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1  
 ☎ 03-3312-2111 (代表)  
 ☆杉並区のホームページでご覧になれます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

05 - 0105

## 北海道名寄市のご案内

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらす、もち米やアスパラガス等が国内屈指の収穫量を誇る、農業を基幹産業とする都市です。夏と冬の寒暖差が最大で60℃にもなり、日本最大級の望遠鏡を持つ市立天文台「きたすばる」や、雪質日本一ともいわれるスキー場などがあります。

杉並区と名寄市の交流は、平成元年7月に旧風連町と交流自治体協定を結んだことに始まります。その後住民同士の幅広い交流が続いてきましたが、平成18年3月には旧風連町と旧名寄市とが合併し、新しい名寄市としてスタートを切りました。杉並区と新名寄市は、これまで築いてきた両自治体の関係をさらに発展させていくため、平成18年6月に協定を再締結し、より一層の交流を深めています。



### 名寄市のデータ

面積 535.20 km<sup>2</sup>  
 (杉並区 34.06 km<sup>2</sup>)  
 人口 25,365人  
 世帯数 13,970世帯  
 (令和6年1月末現在)



北国の春を彩る芝桜



夏のひまわり畑



生産量日本一を誇るもち米の稲穂



名寄市  
観光キャラクター  
「なよろう」



なよろ市立天文台 きたすばる

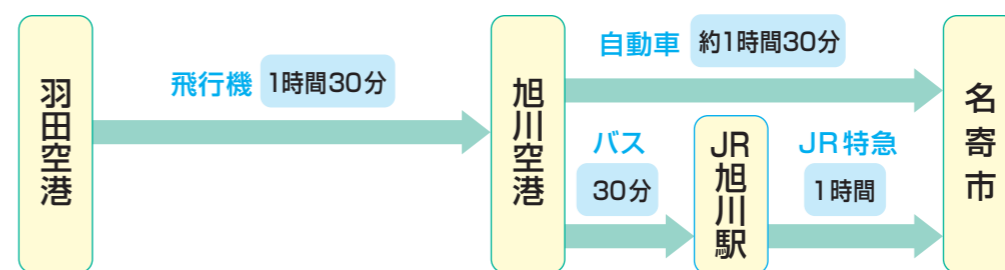


雪質日本一！ピヤシリスキー場



神秘的なサンピラー現象

### 名寄市へのアクセス



### 名寄市公式サイト



## 「小学生名寄自然体験交流事業」は 杉並区次世代育成基金を活用しています

杉並区次世代育成基金は、次代を担う子どもたちが、自然・文化・スポーツなどさまざまな分野における体験・交流事業への参加を通して、視野を広げ、将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援するための杉並区独自の仕組みです。

平成24年度の創設より、寄附者の皆さまからの継続的なご支援をいただくことで、多くの子どもたちに貴重な体験を提供することができています。寄附者の思いが基金を通じて子どもに託され、その子どもたちが大人になり、さらに次の世代を育んでいく。

この「支援の循環」が杉並に根付き、希望に満ち溢れた未来へとつながるよう、一人でも多くの皆様のご支援をお願いいたします。

区主催のイベントや次世代育成基金活用事業の報告会などで募金活動を行っています。杉並区次世代育成基金の詳細については、杉並区ホームページ(下記QRコード)をご確認ください。



子どもたちの夢を応援する  
杉並区次世代育成基金へのご寄附をお願いします。



【お問い合わせ】

杉並区児童青少年課 TEL:03-3393-4760 mail:jisedai-ikusei@city.suginami.lg.jp